

幼児教育実態調査

【保護者編】

平成23年10月実施

福井県教育委員会

目 次

はじめに	1 頁
I 調査概要	2 頁
II 主な結果	
1 保護者の状況	5 頁
2 幼児の状況	6 頁
3 育児	8 頁
4 幼児教育の考え方	12 頁
5 幼児の生活	19 頁
6 保育所・幼稚園等への要望・意見	21 頁
7 保育所・幼稚園等の施設等に対する要望・意見	25 頁
8 自由意見	
(1) 保護者の理想とする幼児教育について	29 頁
(2) 家庭教育について	32 頁
(3) 地域教育（近隣住民、公民館・児童館などの活動）について	34 頁
III アンケート	37 頁

はじめに

福井県では、平成23年9月に策定した「福井県教育振興計画 ～未来を拓く人づくりプラン～」において、ゼロ歳から高校を卒業する18歳まで、一貫した考えの下で、福井県の将来を担う子どもたちを育てていく「福井型18年教育」の推進を掲げました。

本県の小中学生の学力・体力は全国トップレベルにあります。この礎となったのは、小中学校だけでなく、保育所・幼稚園や保護者の皆さんが努力を重ねてこられた成果です。

幼児教育の時期は、人間形成の基礎を担う最も大切な時期ですが、全国的な制度として、保育所・幼稚園に関する行政の施策は市町が行うこととなっており、都道府県が直接実施することはほとんどありませんでした。

幼児教育について、県全体で実態を調査したデータは全国的にもほとんどないのが実情であり、この分野での施策が市町ごとに行われてきたことと関係しています。

福井県では「福井型18年教育」を進める中で、県も保育所、幼稚園やご家庭の保護者の皆さんと手を携えて、幼児教育をより質の高いものにしていきたいと考え、「幼児教育プログラム策定委員会」を設置し、保護者3,000人を対象に、本県初となる県下一斉のアンケートを実施しました。

この調査結果によって、これまでに統計的に明らかにされてこなかった幼児・保護者の生活の現状などが、少しずつ明らかになってきました。

改めて、幼児教育の“今”を知ることで、家庭や地域、保育所・幼稚園の皆さんとともに、将来を一緒に考え、福井県の特長を生かした幼児教育がより一層向上していくよう、議論を深めていきたいと考えております。

I 調査概要

- 1 目的 幼児教育プログラムの策定に当たって、幼児家庭の実態を明らかにし、具体の施策に反映させる。
- 2 調査時期 平成23年10月
- 3 対象者数 0～5歳児各500人の保護者 計3,000人
- 4 調査方法 住民基本台帳から無作為に0～5歳児を抽出し、その保護者に直接郵送し、返信用封筒で県に回答

5 基本調査概要

(1) 保護者

回答者1,324人(回答率44.1%)の内訳は下表のとおりとなった。

ア 年齢別

	回答数	割合
20歳代以下	160	12.1%
30歳代	922	69.6%
40歳代	201	15.2%
50歳代以上	10	0.8%
未記入・無効等	31	2.3%
計	1,324	100.0%

イ 地域別内訳

	回答数	割合
福井・坂井	643	48.6%
奥越	95	7.2%
丹南	300	22.7%
嶺南	253	19.1%
未記入・無効等	33	2.5%
計	1,324	100.0%

ウ 性別

	回答数	割合
男	175	13.2%
女	1,117	84.4%
未記入・無効等	32	2.4%
計	1,324	100.0%

エ 母親の職業

	回答数	割合
常勤(フルタイム)	418	31.6%
パートタイム	348	26.3%
自営業	65	4.9%
専業主婦	321	24.2%
産休・育児休暇中	106	8.0%
その他	28	2.1%
未記入・無効等	38	2.9%
計	1,324	100.0%

オ 父親が最後に卒業された学校

	回答数	割合
中学校	62	4.7%
高等学校	423	31.9%
専門学校	153	11.6%
高等専門学校	33	2.5%
短期大学	34	2.6%
4年制大学	500	37.8%
大学院(6年制大学含む)	69	5.2%
その他	10	0.8%
未記入・無効等	40	3.0%
計	1,324	100.0%

(2) 幼児

ア 年齢・施設別

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	未記入・無効等	計
私立幼稚園	回答数	1	2	14	25	50	23	2	117
	割合	0.7%	0.8%	5.4%	9.7%	17.9%	18.3%	18.2%	8.8%
国公立幼稚園	回答数	0	0	1	20	12	17	0	50
	割合	0.0%	0.0%	0.4%	7.8%	4.3%	13.5%	0.0%	3.8%
私立保育所	回答数	28	66	93	95	108	36	3	429
	割合	19.2%	26.6%	36.2%	37.0%	38.7%	28.6%	27.3%	32.4%
公立保育所	回答数	11	49	72	98	101	47	3	381
	割合	7.5%	19.8%	28.0%	38.1%	36.2%	37.3%	27.3%	28.8%
私立子ども園	回答数	0	3	0	4	1	2	0	10
	割合	0.0%	1.2%	0.0%	1.6%	0.4%	1.6%	0.0%	0.8%
公立子ども園	回答数	0	2	4	1	0	1	0	8
	割合	0.0%	0.8%	1.6%	0.4%	0.0%	0.8%	0.0%	0.6%
その他の施設	回答数	1	8	8	2	5	0	0	24
	割合	0.7%	3.2%	3.1%	0.8%	1.8%	0.0%	0.0%	1.8%
通園していない	回答数	105	117	64	11	2	0	2	301
	割合	71.9%	47.2%	24.9%	4.3%	0.7%	0.0%	18.2%	22.7%
未記入・無効等	回答数	0	1	1	1	0	0	1	4
	割合	0.0%	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	9.1%	0.3%
合計	回答数	146	248	257	257	279	126	11	1,324
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

イ 兄弟・地域別

		福井・坂井	奥越	丹南	嶺南	未記入・無効等	計
一人っ子	回答数	150	28	93	56	9	336
	割合	23.3%	29.5%	31.0%	22.1%	27.3%	25.4%
2人	回答数	348	41	128	120	17	654
	割合	54.1%	43.2%	42.7%	47.4%	51.5%	49.4%
3人	回答数	125	22	65	66	7	285
	割合	19.4%	23.2%	21.7%	26.1%	21.2%	21.5%
4人	回答数	17	3	14	8	0	42
	割合	2.6%	3.2%	4.7%	3.2%	0.0%	3.2%
5人以上	回答数	2	1	0	3	0	6
	割合	0.3%	1.1%	0.0%	1.2%	0.0%	0.5%
未記入・無効等	回答数	1	0	0	0	0	1
	割合	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
合計	回答数	643	95	300	253	33	1,324
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

6 「第4回幼児の生活アンケート」(ベネッセ次世代育成研究所)との比較

平成22年3月にベネッセ次世代研究所が乳幼児の生活、保護者の子育てに関する意識と実態に関する全国調査(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の0歳6か月～6歳児就学前の乳幼児をもつ保護者3,522人を対象)を実施しました。

本県の調査では、ベネッセ次世代研究所の調査と設問事項などで整合をとることで、全国と本県の相違点などを分析することとします。

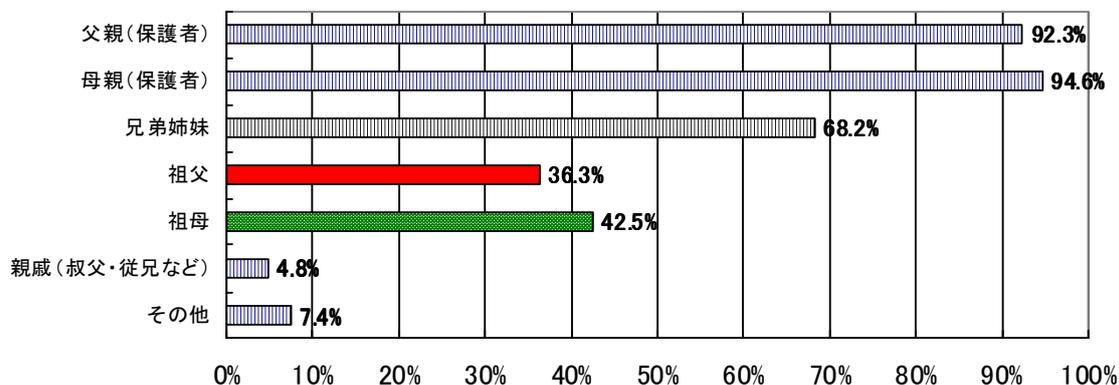
調査時期	調査対象	回答数
H22.3月	全国調査(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)の0歳6か月～6歳児就学前の乳幼児をもつ保護者	(全体) 対象数 7,801 回答数 3,522 回答率 45.1%

居住地	地域	東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県		
	割合(%)	25.3%	25.3%	24.5%	24.0%		
	※無答不明 0.9%						
年齢	年齢	1歳6か月 ～1歳11か月	2歳 ～2歳11か月	3歳 ～3歳11か月	4歳 ～4歳11か月	5歳 ～5歳11か月	6歳 ～6歳11か月
	割合(%)	9.3%	18.4%	18.2%	17.6%	18.2%	18.3%
	※無答不明 0.4%						
就園状況	地域	保育園	幼稚園	未就園	その他の園・施設		
	割合(%)	39.	2.9%	33.1%	2		
	※無答不明 2.5%						

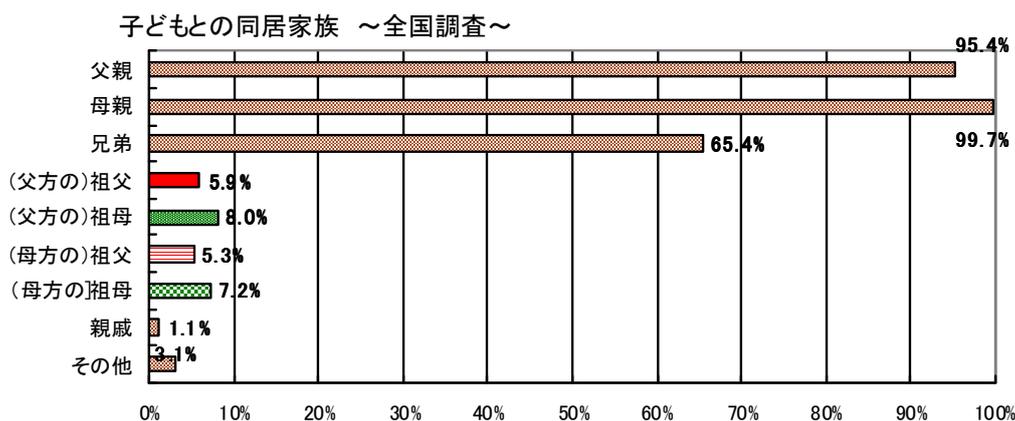
Ⅱ 主な結果

1 保護者の状況

(1) 幼児との同居家族



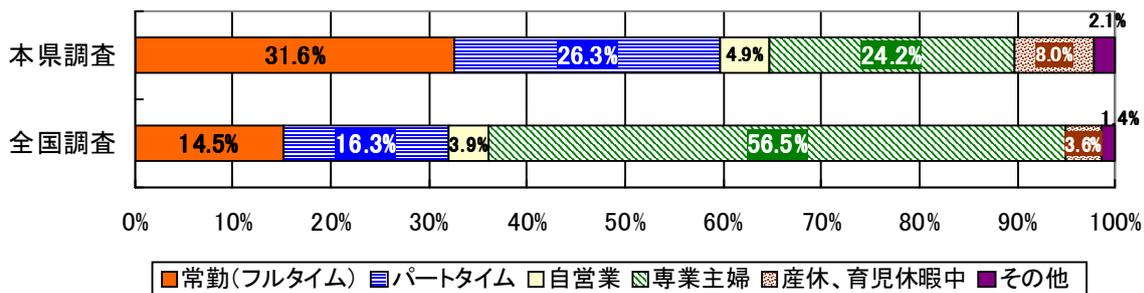
全国調査との比較では、本県の祖父母との同居割合が全国調査の約3倍であり、3世代同居世帯が多いことがわかる。



(2) 保護者の就業状況

本県と全国調査を比較した結果、本県の母親の就業状況のうち「常勤」と「パートタイム」の合計が全国調査の約1.9倍に達し、また、「産休・育児休暇中」の割合も約2.2倍となっており、母親の就業率の高さがわかる。

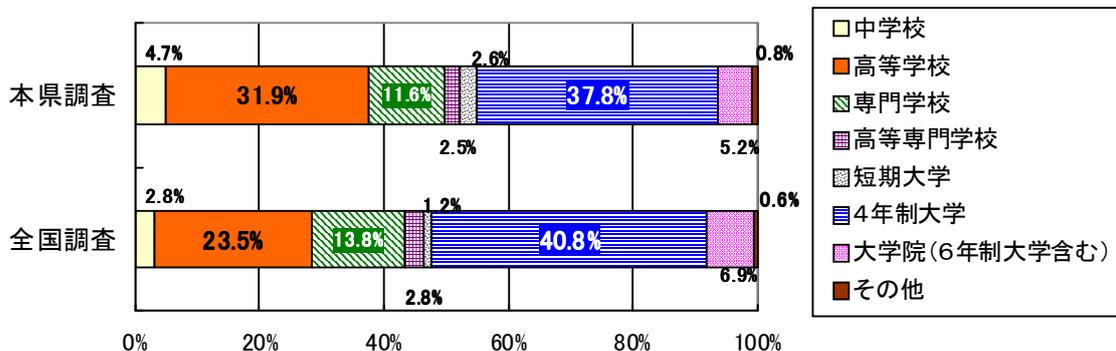
母親の就業状況(本県と全国調査)



(3) 父親の最終学歴

本県と全国調査を比較した結果、本県の父親の最終学歴のうち「高等学校」の割合が全国調査より8.4%高く、一方で、「専門学校」と「4年生大学」の割合が低くなっている。

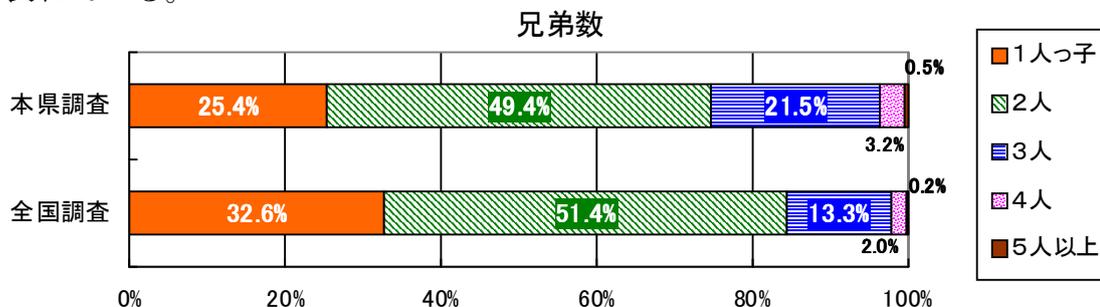
父親の最終学歴



2 幼児の状況

(1) 兄弟

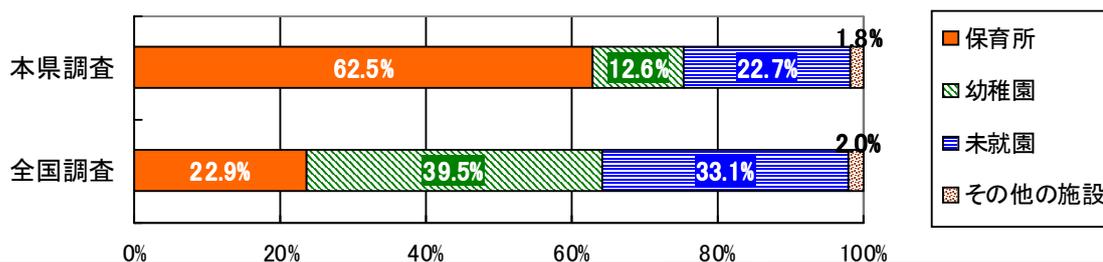
本県と全国調査を比較した結果、3人以上の兄弟の割合は本県が高く、平成18年度からスタートした「ふくい3人っ子応援プロジェクト」の成果が表れている。



(2) 幼児の通園状況

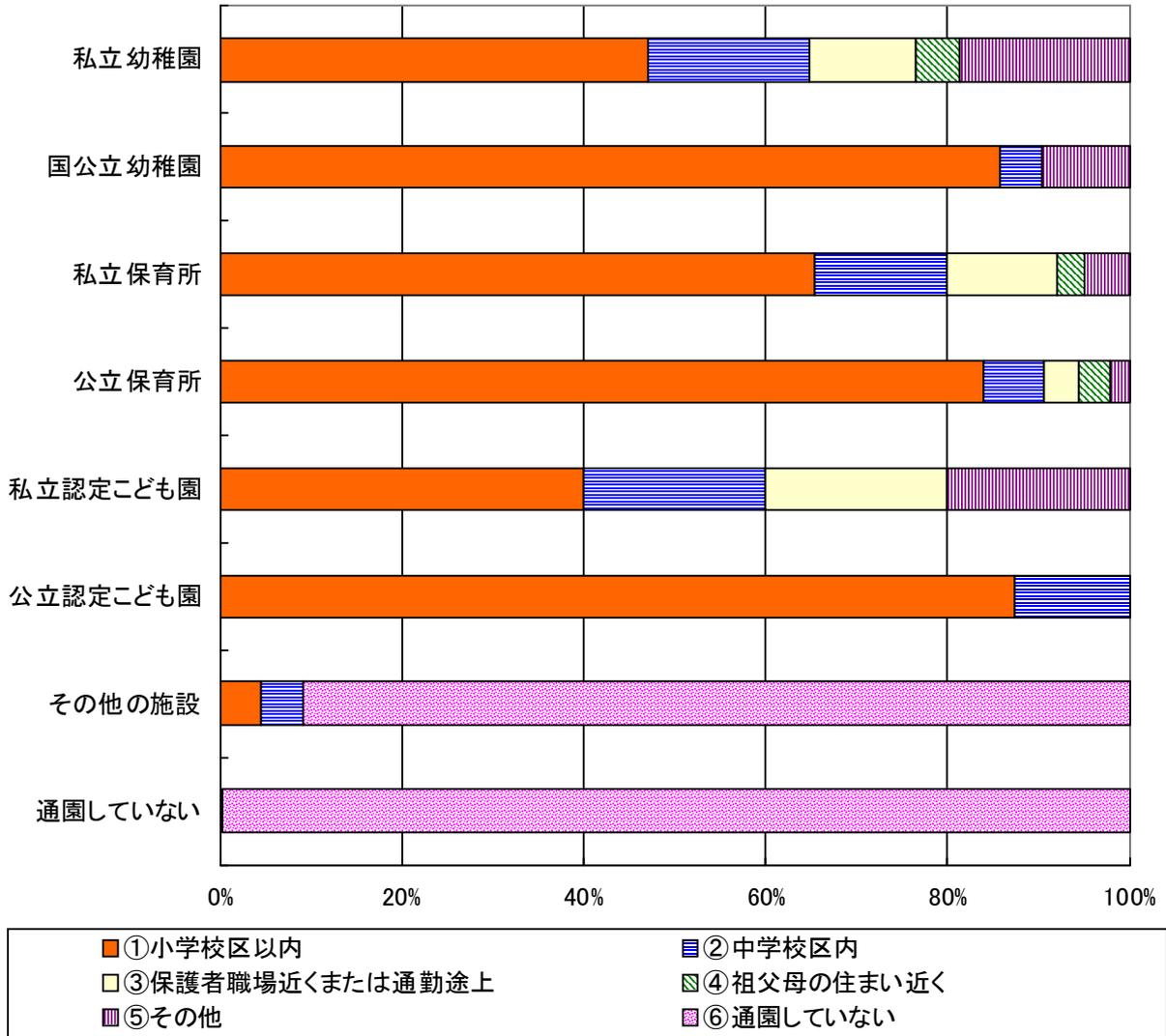
本県と全国調査を比較した結果、本県は、保育所に通園する割合が約2.7倍と高い。また、未就園児も10.4%低く、就園率が高くなっている。

就園状況



(3) 通園する保育所・幼稚園と小学校区との状況

通園する保育所・幼稚園の所在地を聞いたところ、公立施設は「①小学校区内」または「②中学校区内」が多く、私立施設では「③保護者職場近くまたは通勤途上」が目立つ。

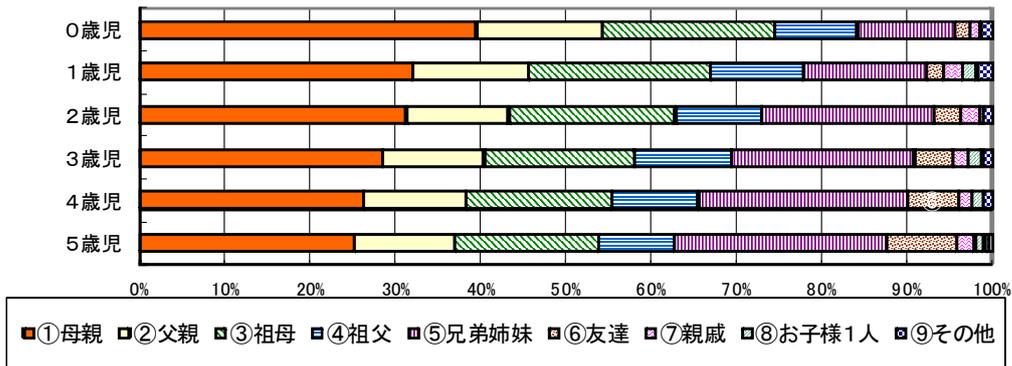


3 育児

(1) 幼児の遊び相手または面倒を見てくれる人

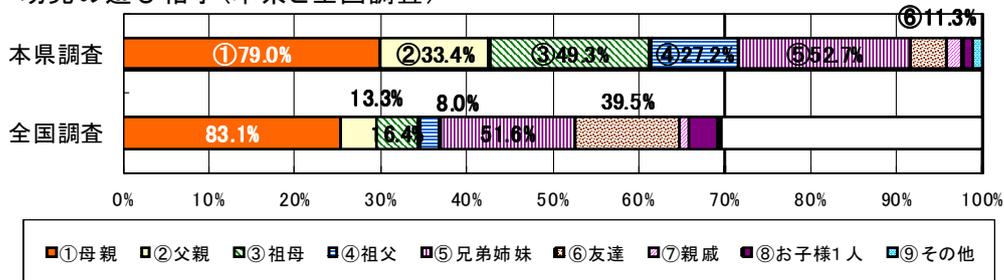
ア 平日、幼児の遊び相手（保育所・幼稚園以外）

5歳児になるにつれて、遊び相手が「①母親」から「⑤兄弟姉妹」または「⑥友達」に移行している。



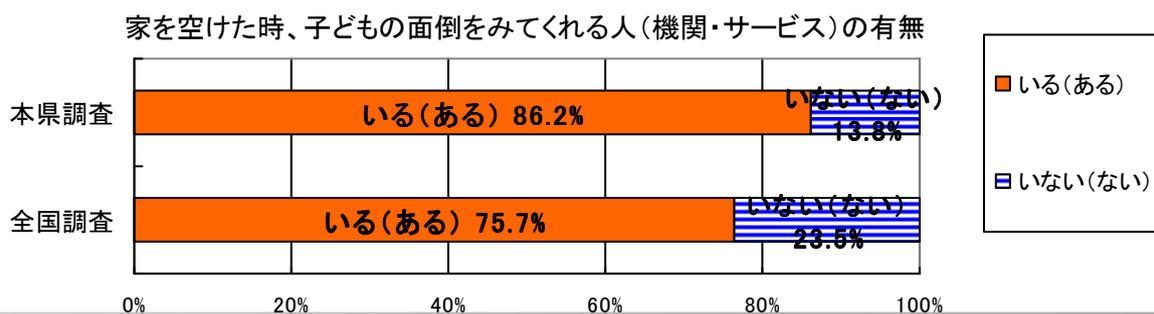
全国調査との比較では、本県は「③祖母」と「④祖父」が面倒を見てくれる割合が高く、また、「⑥友達」と遊ぶ割合が少ない。

幼児の遊び相手（本県と全国調査）



イ 保護者が家を空けた時に幼児の面倒を見る人（機関・サービス）の有無

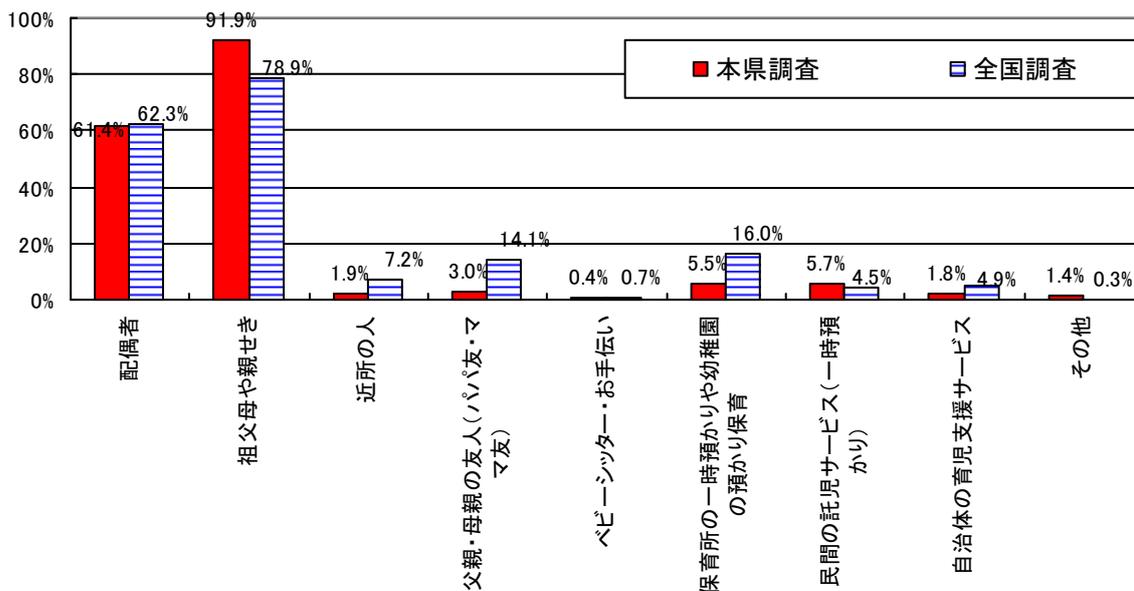
本県と全国調査を比較した結果、本県は面倒をみてくれる人がいると答えた割合が約10%高い。



ウ イで「いる（ある）」と回答した方の面倒を見てくれる人（機関・サービス）

本県と全国調査を比較した結果、本県は「祖父母や親せき」の割合が13%高い一方で、「父親・母親の友人（パパ友・ママ友）」や「保育所の一時預かりや幼稚園の預かり保育」の割合は全国調査が3～5倍程度高くなっている。

面倒をみてくれる人（機関・サービス）

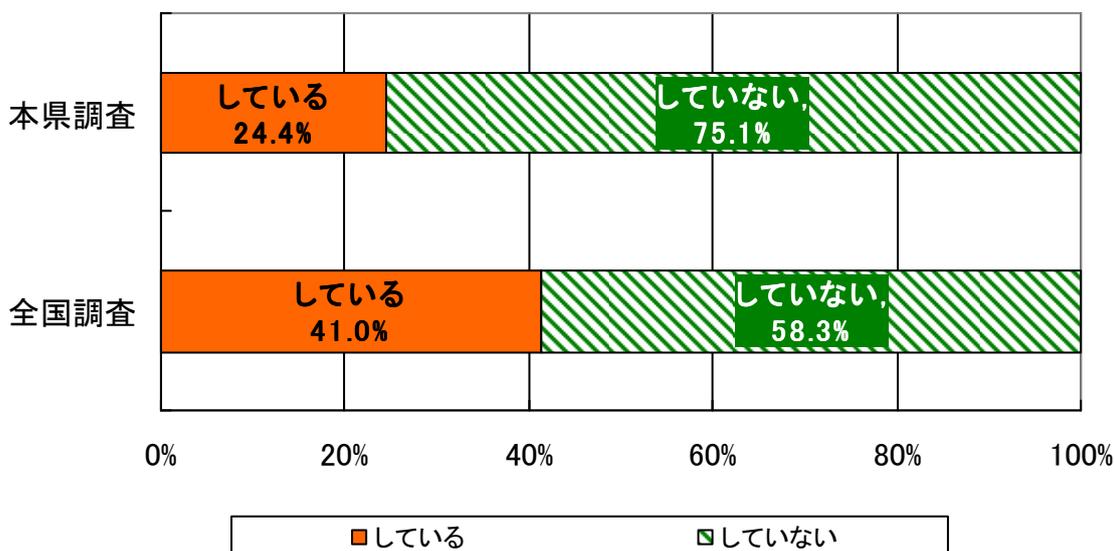


（２）幼児の習い事・おけいこ事

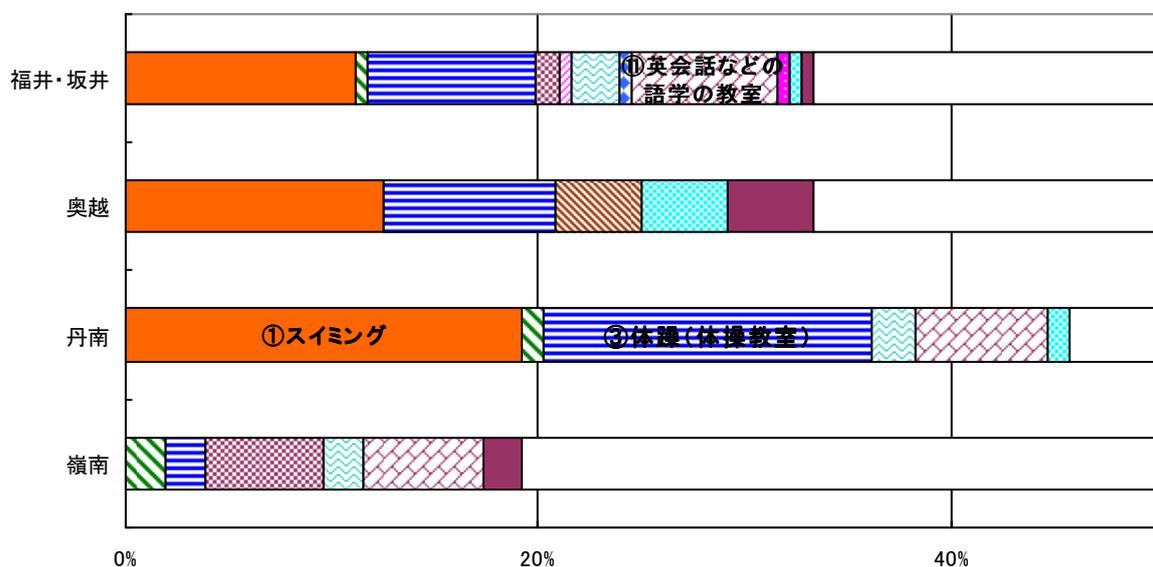
ア 保育所・幼稚園等で習っている習い事・おけいこ事（通信教育を含む。）

本県と全国調査を比較した結果、本県は「している」割合が16.6%低い。

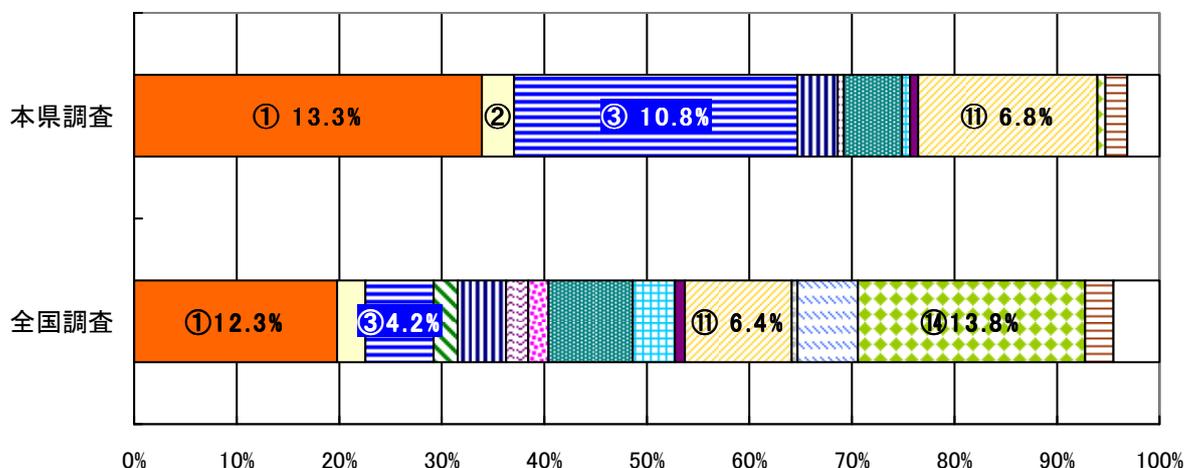
習い事・おけいこ事の状況



イ 保育所・幼稚園等で習っている習い事・おけいこ事の種別
 習い事・おけいこ事の種別では、「①スイミング」、「③体操教室」の順に
 多くなっている。



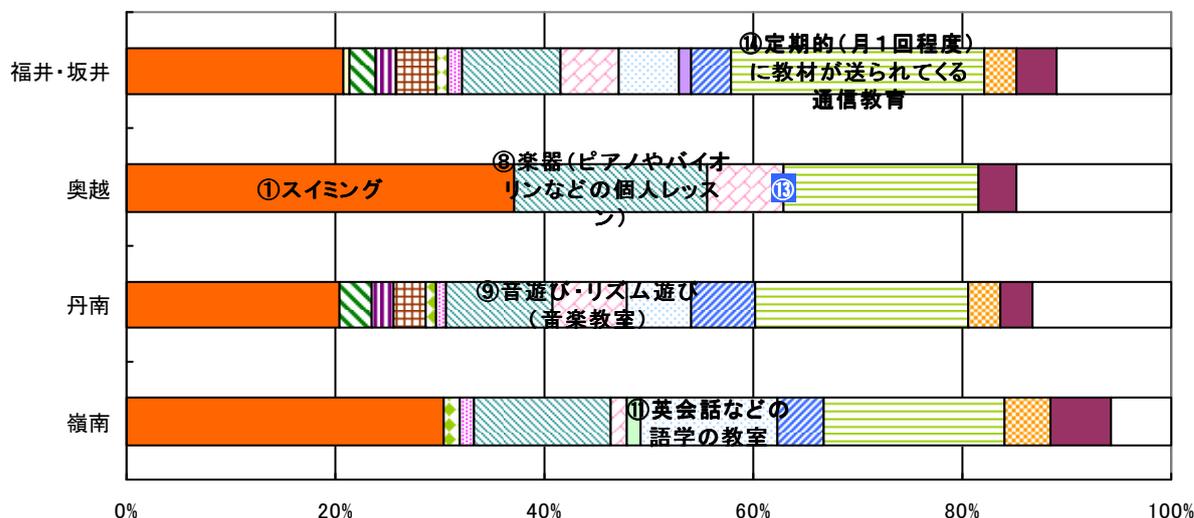
全国調査との比較では、「③体操教室」が多く、「⑭定期的（月1回程度）に教材が送られてくる通信教材」が少ない。



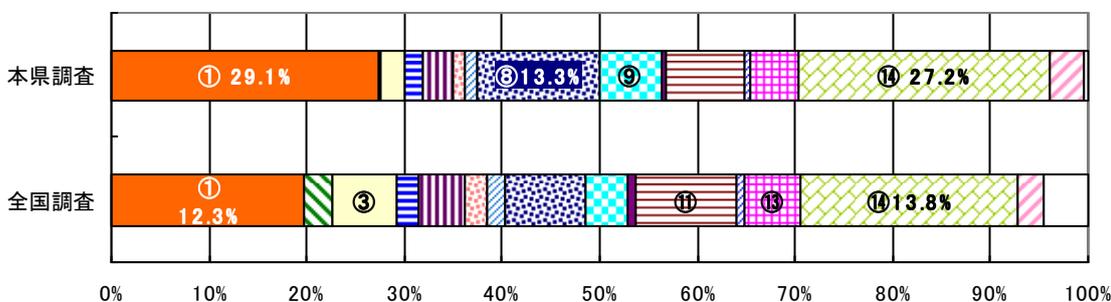
- | | | |
|--------------------------|-----------------------------|--------------------|
| ■ ①スイミング | □ ②サッカー | ■ ③体操(体操教室) |
| ■ ④バレエ | ■ ⑤リトミック | ■ ⑥ダンス |
| ■ ⑦武道・武術(空手・剣道・柔道など) | ■ ⑧楽器(ピアノやバイオリンなどの個人レッスン) | ■ ⑨音遊び・リズム遊び(音楽教室) |
| ■ ⑩絵画・造形 | ■ ⑪英会話などの語学の教室 | ■ ⑫幼稚園や小学校受験のための塾 |
| ■ ⑬受験目的ではない学習塾や計算・かきとりの塾 | ■ ⑭定期的(月1回程度)に教材が送られてくる通信教育 | ■ ⑮教材を一括して購入する教材 |
| □ ⑯その他 | | |

ウ 保育所・幼稚園以外で習っている習い事・おけいこ事

福井・坂井地域では「⑭定期的（月1回程度）に教材が送られてくる通信教育」が、それ以外の地域では「①スイミング」が最も高い割合となった。



全国調査との比較では、本県は「①スイミング」、「⑧楽器」、「⑭定期的（月1回程度）に教材が送られてくる通信教材」などの割合が比較的高くなっている。



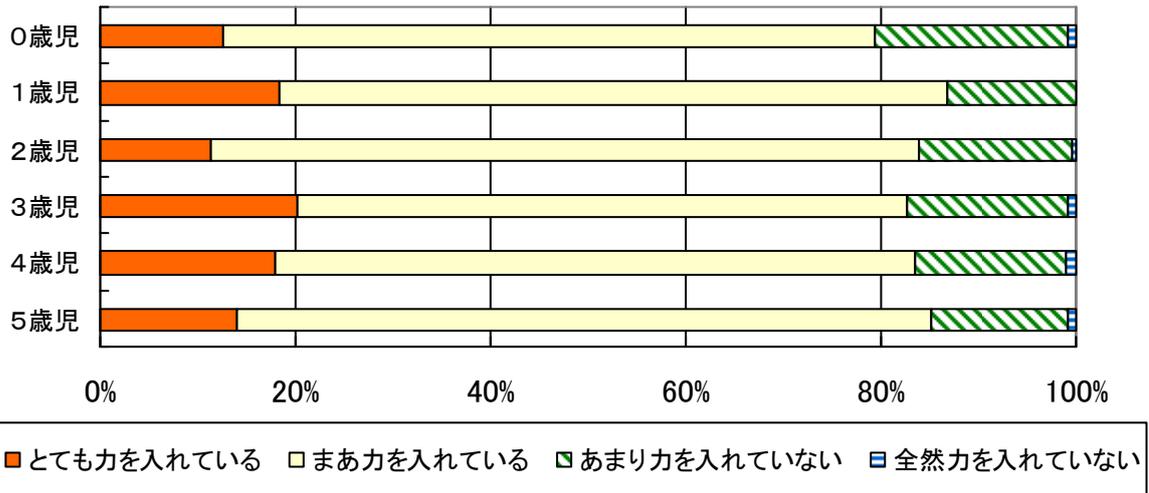
- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| ■ ① スイミング | ■ ② サッカー |
| □ ③ 体操(体操教室) | ■ ④ バレエ |
| ■ ⑤ リトミック | ■ ⑥ ダンス |
| ■ ⑦ 武道・武術(空手・剣道・柔道など) | ■ ⑧ 楽器(ピアノやバイオリンなどの個人レッスン) |
| ■ ⑨ 音遊び・リズム遊び(音楽教室) | ■ ⑩ 絵画・造形 |
| ■ ⑪ 英会話などの語学の教室 | ■ ⑫ 幼稚園や小学校受験のための塾 |
| ■ ⑬ 受験目的ではない学習塾や計算・かきとりの塾 | ■ ⑭ 定期的(月1回程度)に教材が送られてくる通信教育 |
| ■ ⑮ 教材を一括して購入する教材 | ■ ⑯ その他 |

4 幼児教育の考え方

(1) どのようなことに力を入れているか。

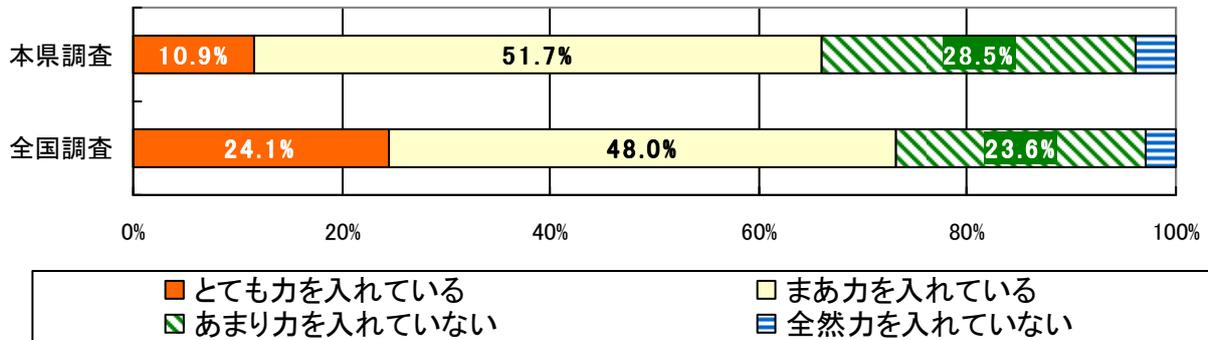
ア 屋外で遊ぶこと

「とても力を入れている」と「まあ力を入れている」の割合の合計が概ね 80% 程度となっている。



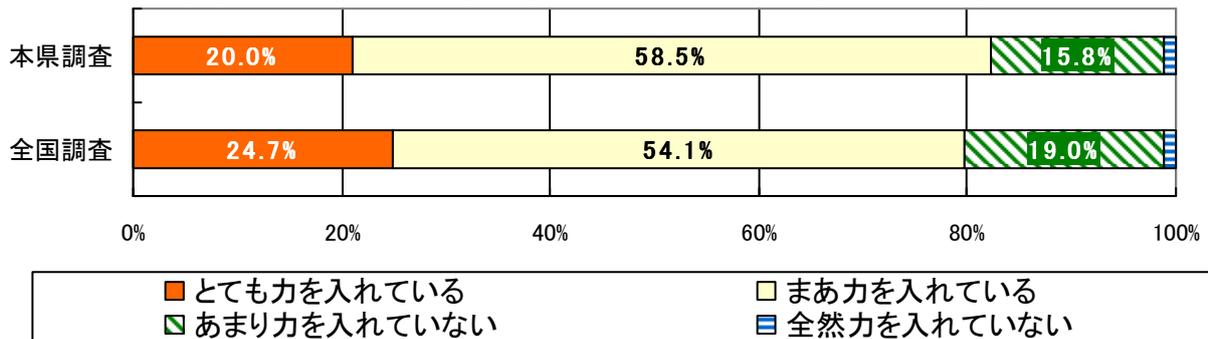
イ 友達と一緒に遊ぶこと

本県と全国調査を比較した結果、本県の「とても力を入れている」の割合が全国の半分以下となっている。



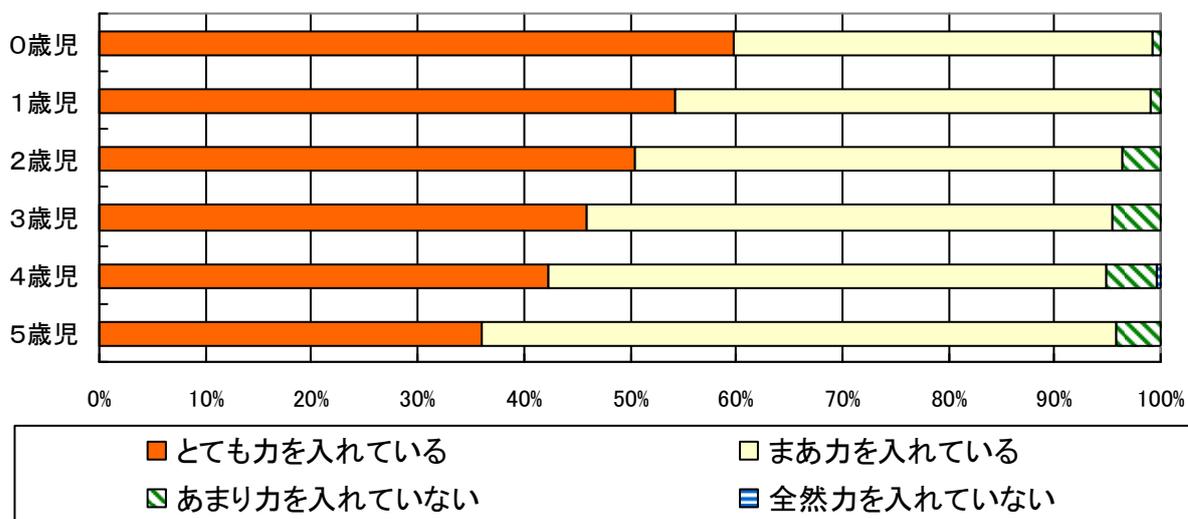
ウ 自然とたくさん触れ合うこと

本県と全国調査では、回答内容に大きな差は見られない。



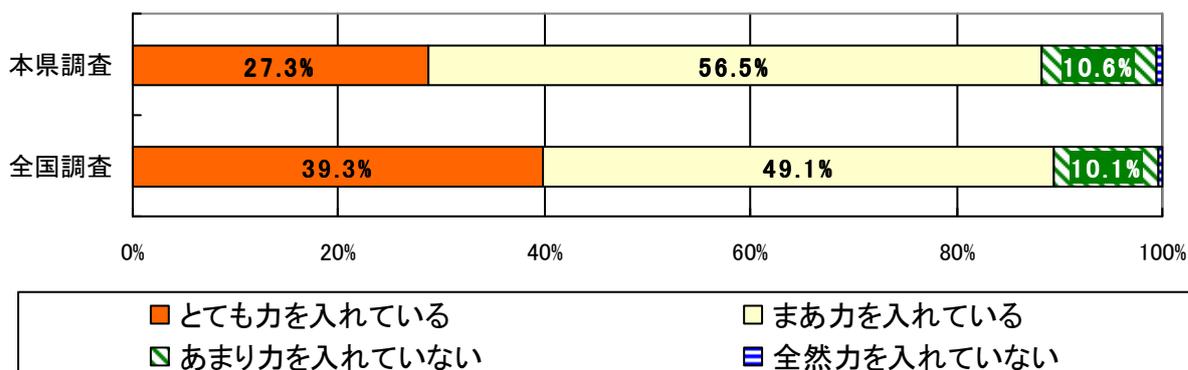
エ 親子でたくさんふれ合うこと

年齢が上がるにつれて、「とても力を入れている」の割合が低くなっている。



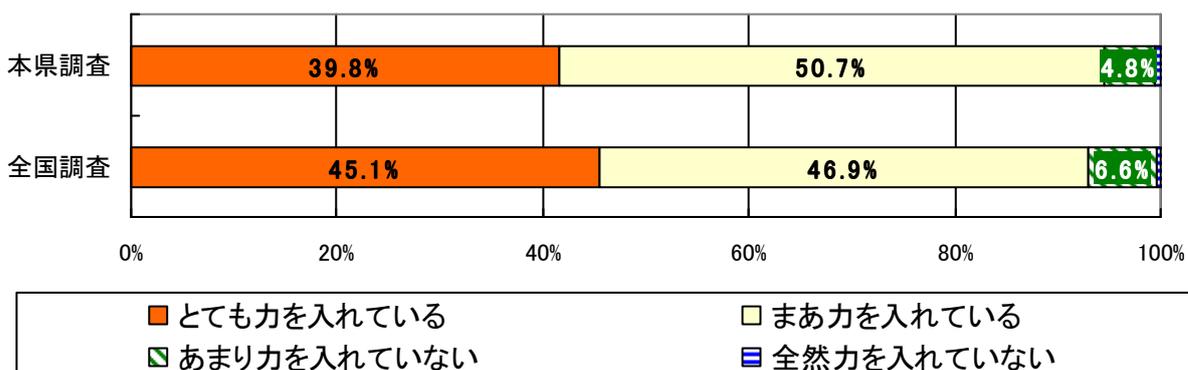
オ 身体を丈夫にすること

本県と全国調査を比較した結果、本県の「とても力を入れている」の割合が全国より12%低い。



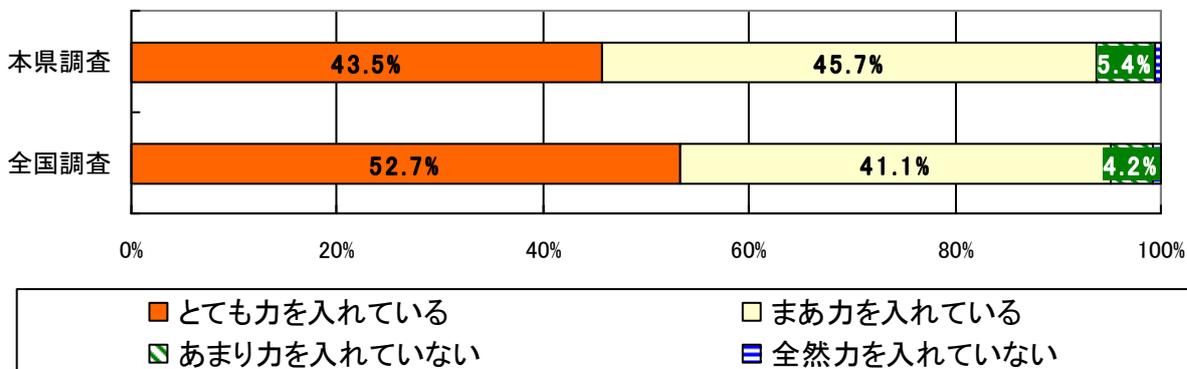
カ 基本的生活習慣を身につけること

本県と全国調査を比較した結果、「とても力を入れている」と「まあ力を入れている」の割合の合計はほぼ同じ割合になった。



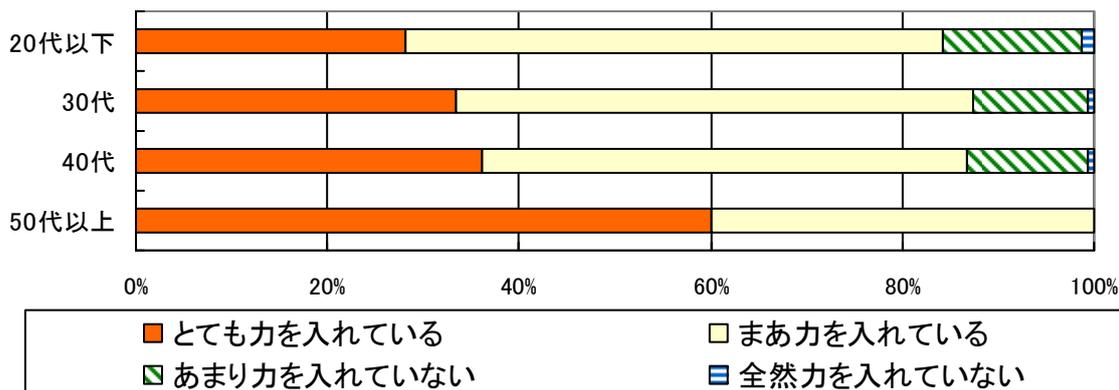
キ 他者への思いやりを持つこと

本県と全国調査を比較した結果、本県の「とても力を入れている」の割合は全国より 9.2%低い。



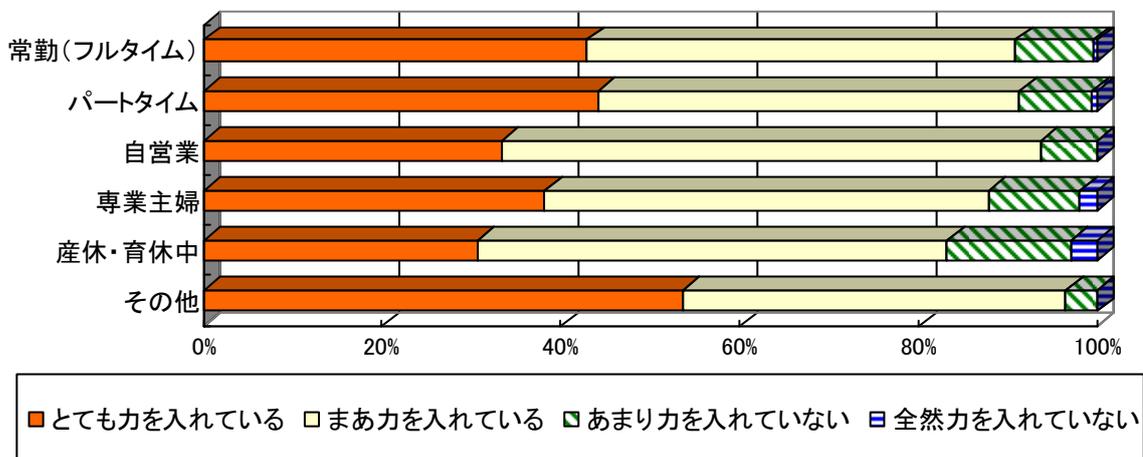
ク 自分の気持ちや考えを人に伝えること

保護者の年齢が高くなるほど「とても力を入れている」と回答した割合が高くなっている。



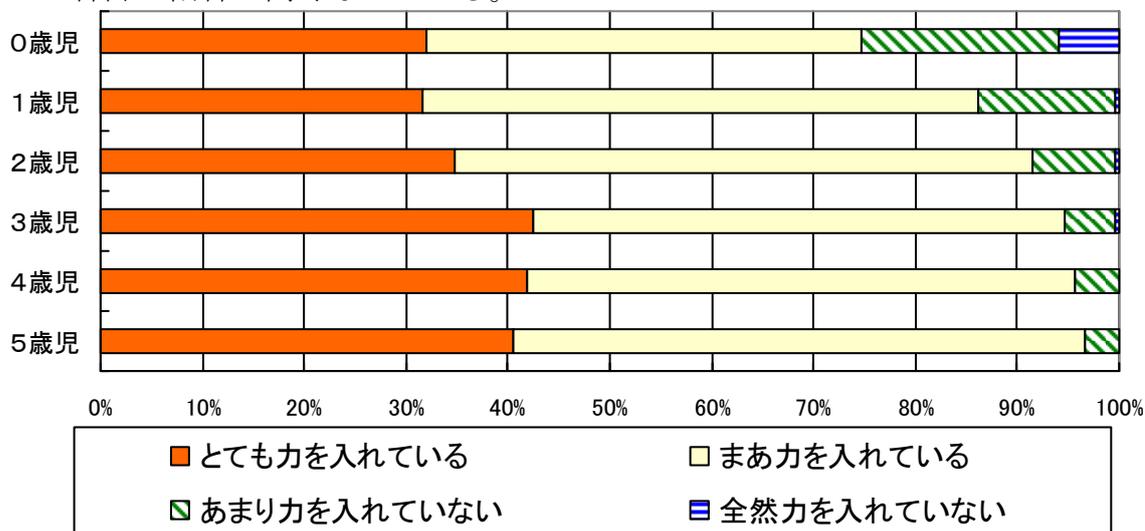
ケ 自分でできることは自分ですること

母親が就業しているケースで「力を入れている」と回答した割合が比較的高くなっている。



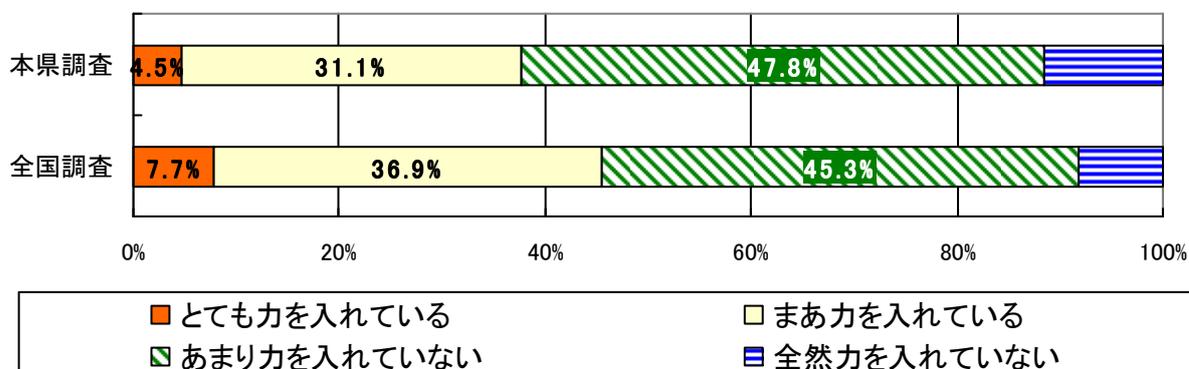
コ 社会のマナーやルールを身につけること

年齢が高くなるほど、「とても力を入れている」と「まあ力を入れている」の合計の割合が高くなっている。



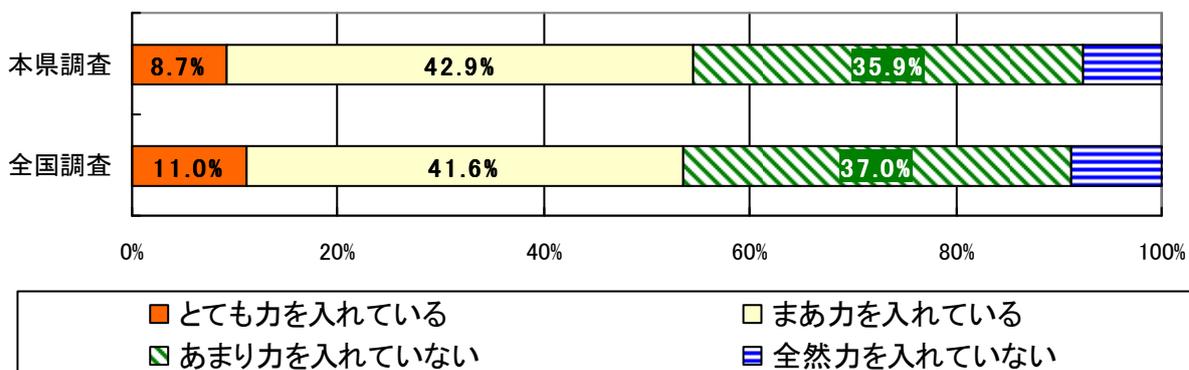
サ 伝統や文化を大切にすること

本県と全国調査を比較した結果、本県の「とても力を入れている」と「まあ力を入れている」の割合の合計は9%少ない。



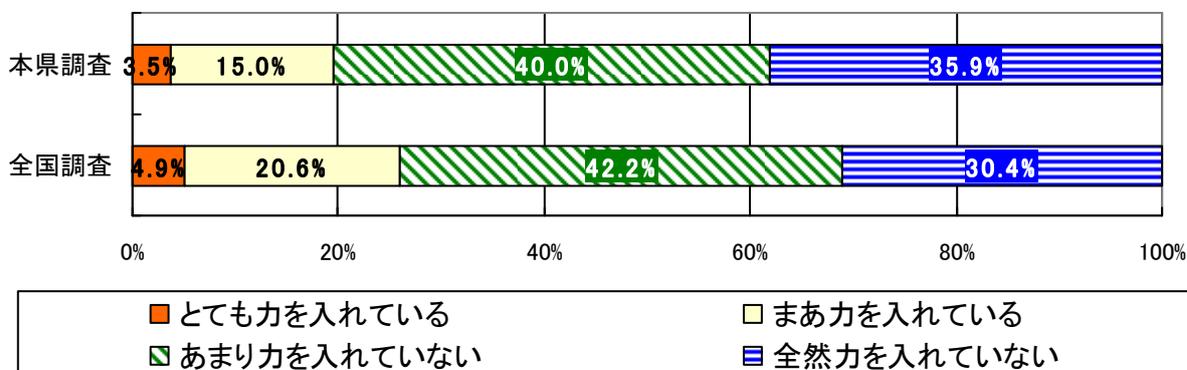
シ 数や文字を学ぶこと

本県と全国調査では、大きな意識の差は見られない。



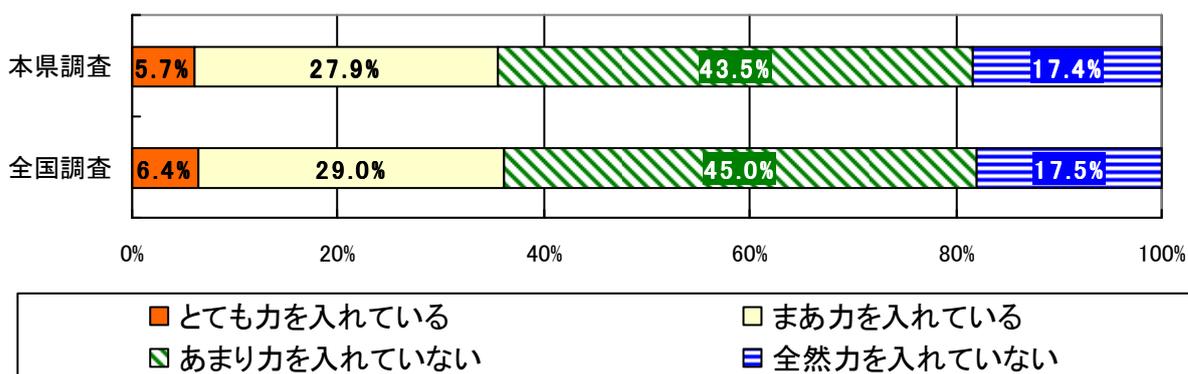
セ 外国語を学ぶこと

本県と全国調査を比較した結果、本県は「とても力を入れている」と「まあ力を入れている」の合計の割合が全国より7%少ない。



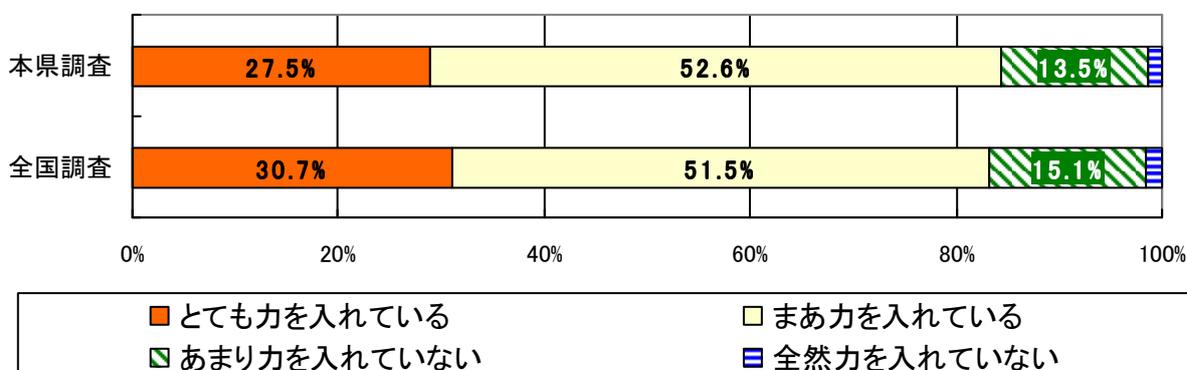
ソ 芸術的な才能を伸ばすこと（音楽や絵画など）

本県と全国調査では、大きな意識の差は見られない。



カ 興味や関心を広げること

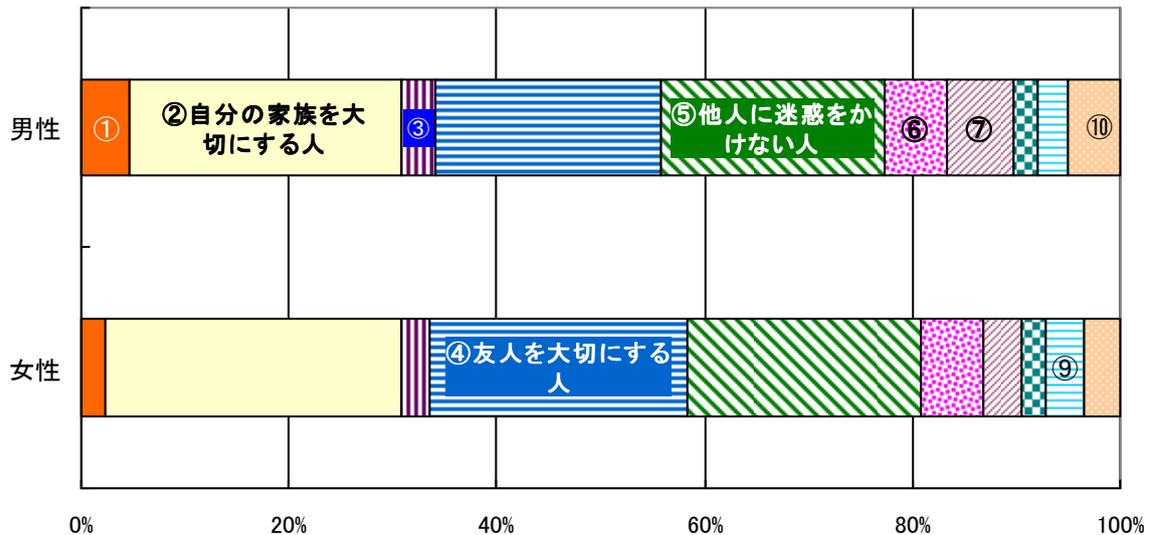
本県と全国調査では、大きな意識の差は見られない。



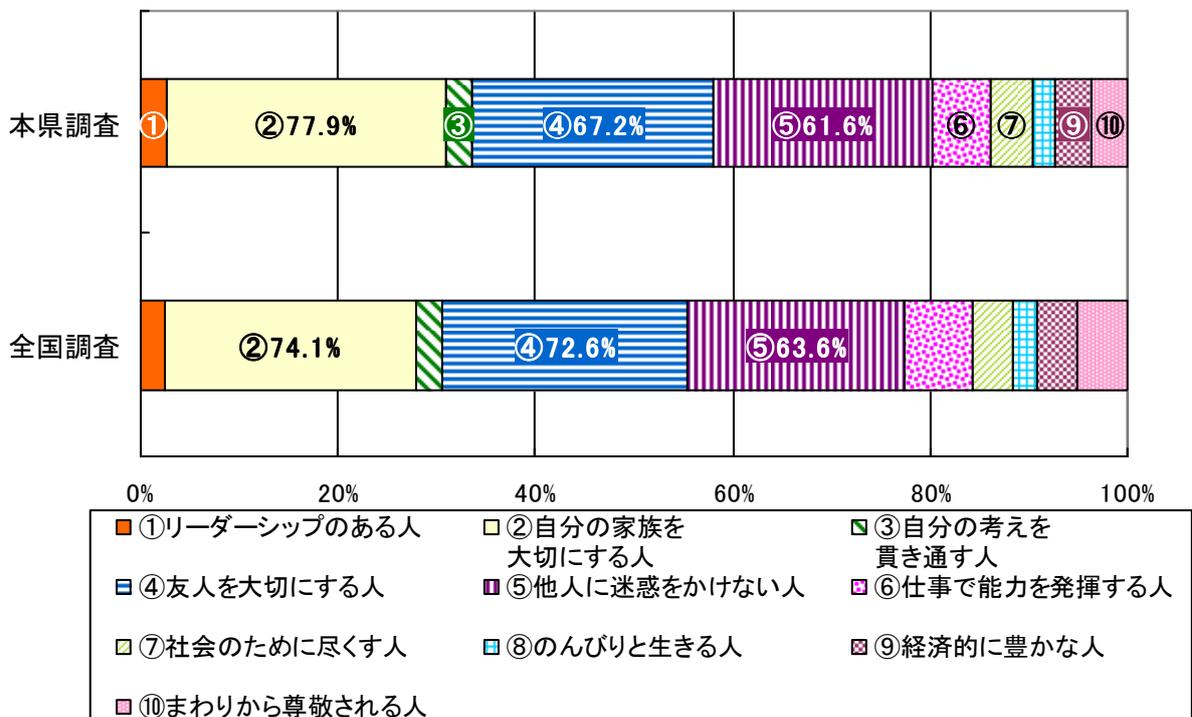
(2) 幼児に期待する人格・教育

ア 将来どのような人になってほしいか

保護者の性別で分析した結果、男性は「①リーダーシップのある人」、「⑤仕事で能力を発揮する人」、「⑩まわりから尊敬される人」が女性より多く、女性は「②自分の家族を大切にしている人」、「④友人を大切にしている人」が男性より多かった。

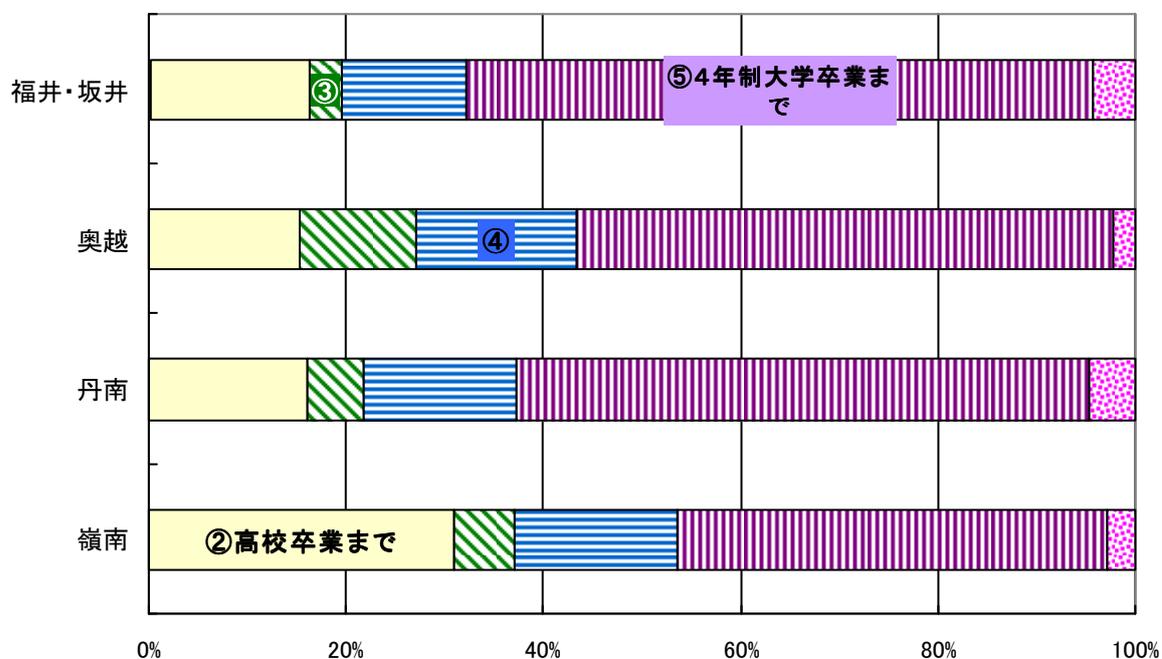


本県と全国調査を比較した結果、本県は「②自分の家族を大切にしている」の割合が全国より3.8%多くなったが、「④友人を大切にしている」の割合は5.4%少なくなっている。

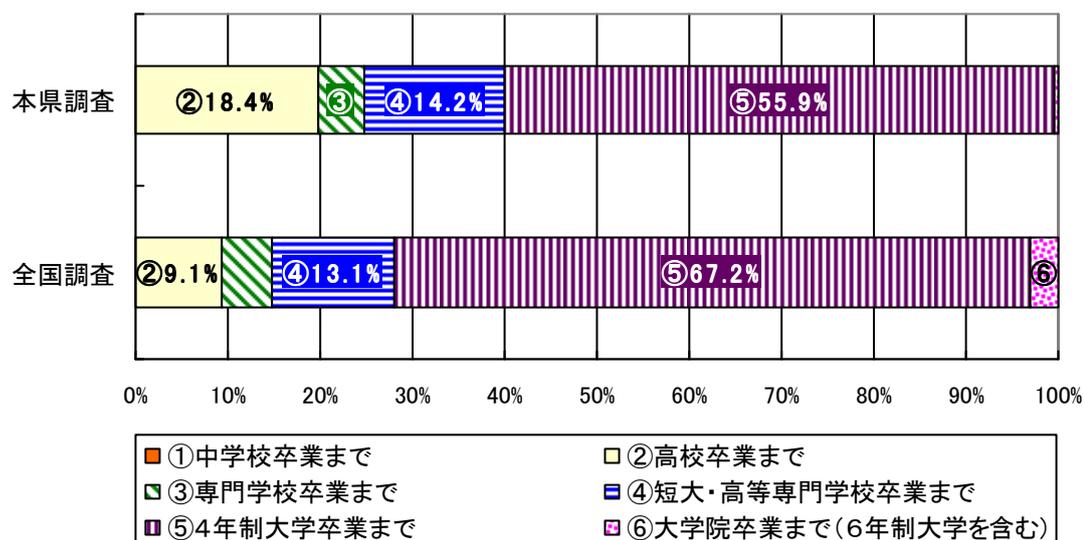


イ 幼児をどの程度進学させたいか

「⑤4年制大学卒業まで」を回答した割合は嶺南地域（42.3%）を除き、50%を超えている。



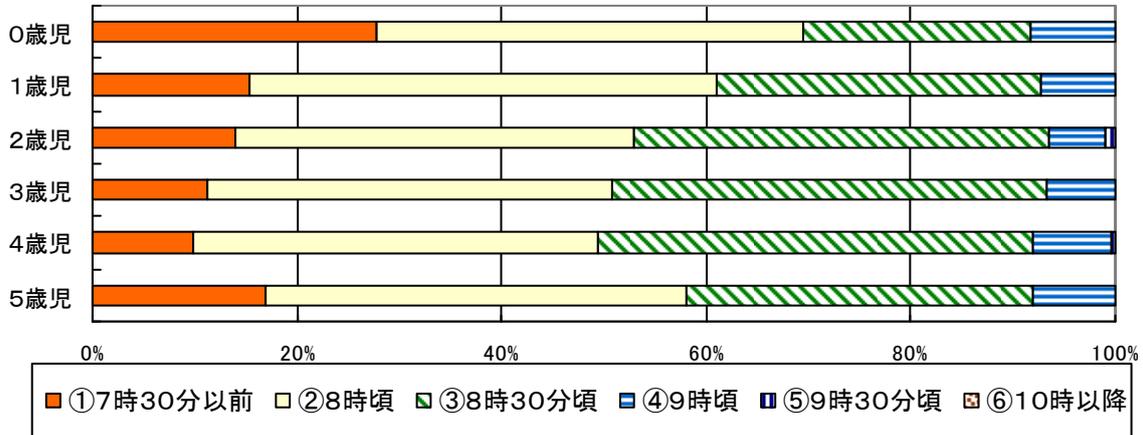
本県と全国調査を比較した結果、「②高校卒業まで」の割合は本県が2倍以上高い一方、「⑤4年制大学卒業まで」の割合は本県が11.3%低くなった。



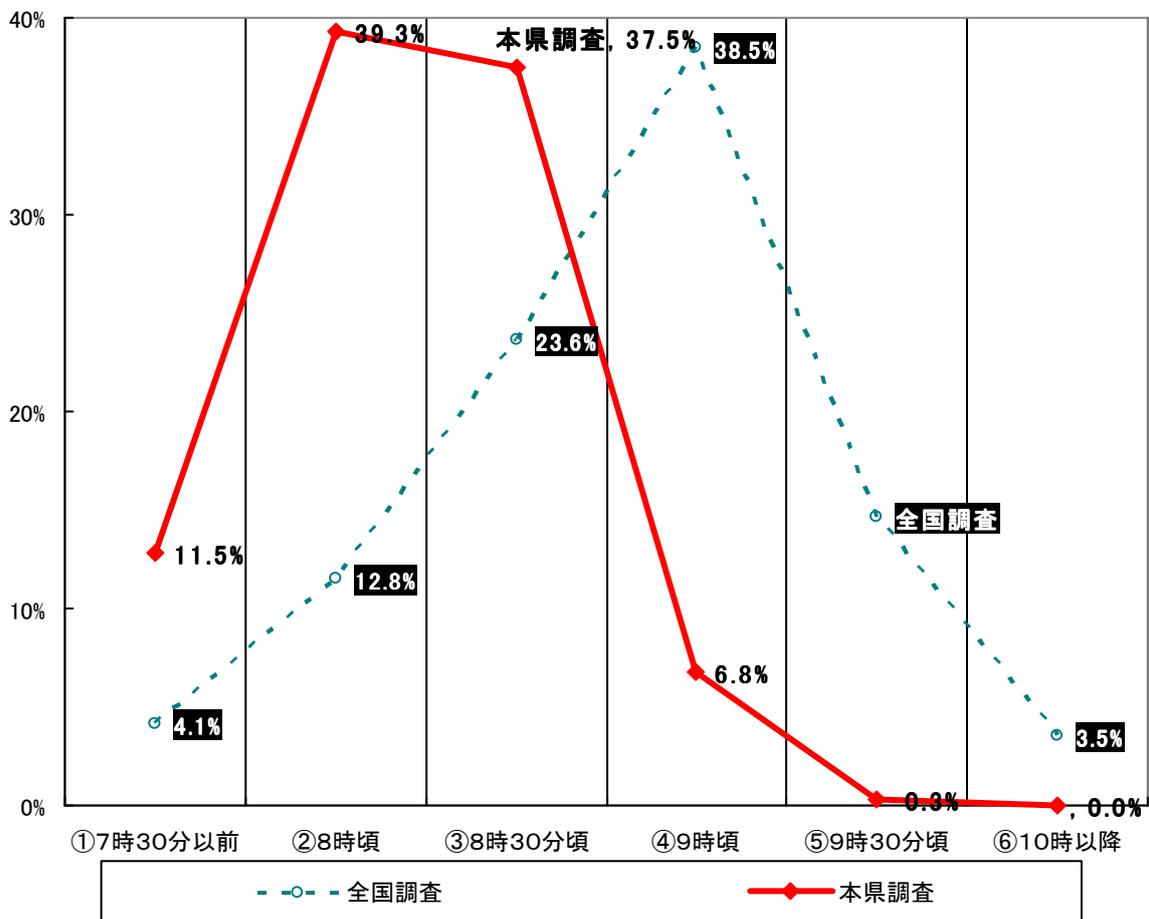
5 幼児の生活

(1) 保育所・幼稚園等に通園する幼児の生活

ア 保育所・幼稚園等に通園するために外出する時刻

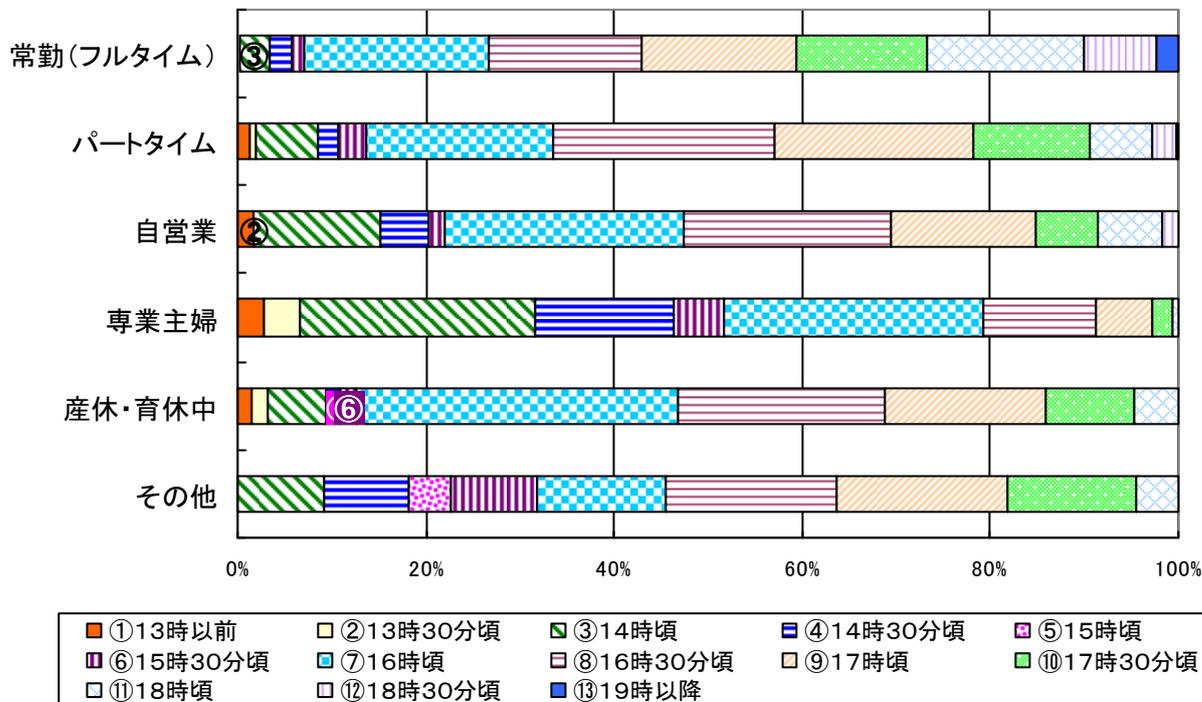


本県と全国調査を比較した結果、「①7時30分前」と「②8時頃」の割合は本県が3倍以上高く、「④9時頃」の割合は全国調査が5倍以上高くなった。

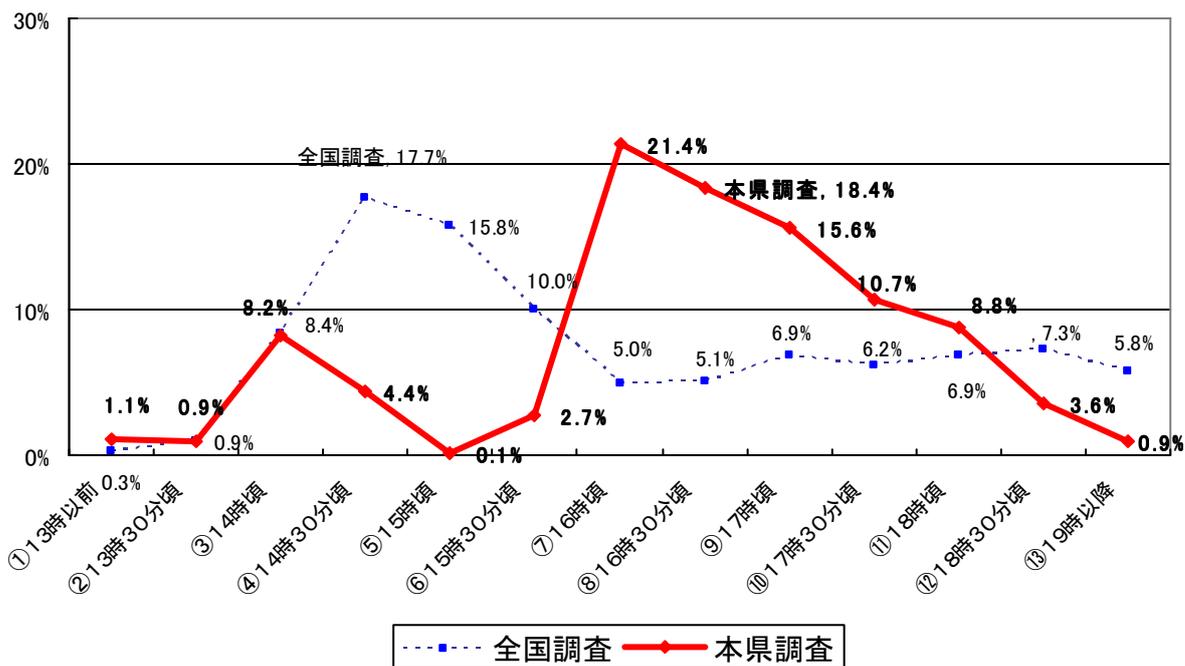


イ 保育所・幼稚園等からの帰宅する時刻

母親の職業に関わらず、幼児の帰宅時刻は「⑦16時頃」が最も多いが、自営業と専業主婦の場合、「③14時頃」の割合も目立っている。



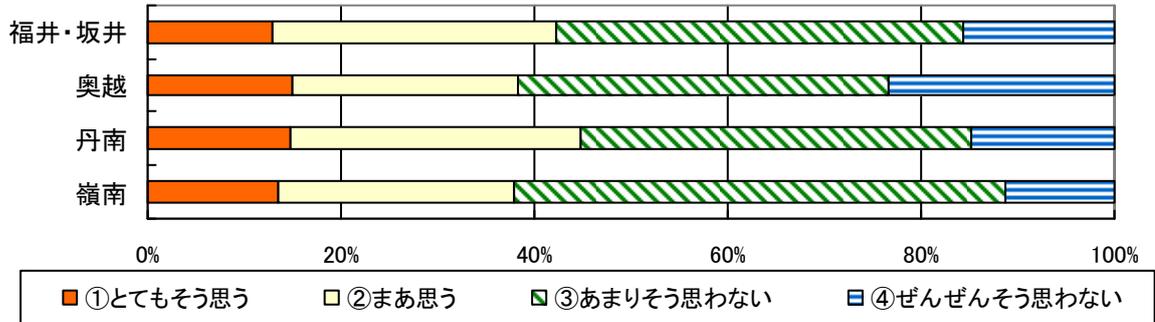
本県と全国調査を比較した結果、本県は全国調査に比べて「④14時30分頃」と「⑤15時頃」、「⑫18時30分頃」、「⑬19時以降」が少なく、「⑦16時頃」、「⑧16時30分頃」、「⑨17時頃」、「⑩17時30分頃」と「⑪18時頃」が多い。



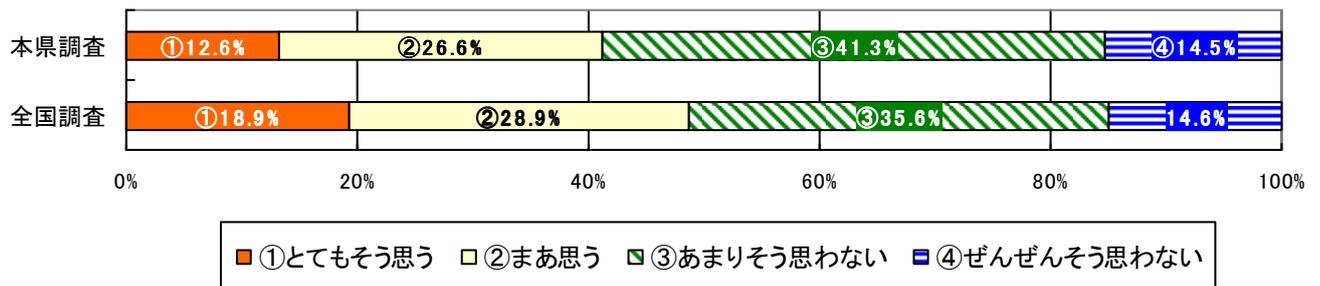
6 保育所・幼稚園等への要望・意見

(1) 保育の時間を長くすること、または延長保育をしてほしい。

すべての地域で「③あまりそう思わない」と「④ぜんぜんそう思わない」の割合の合計が過半数を超えている。

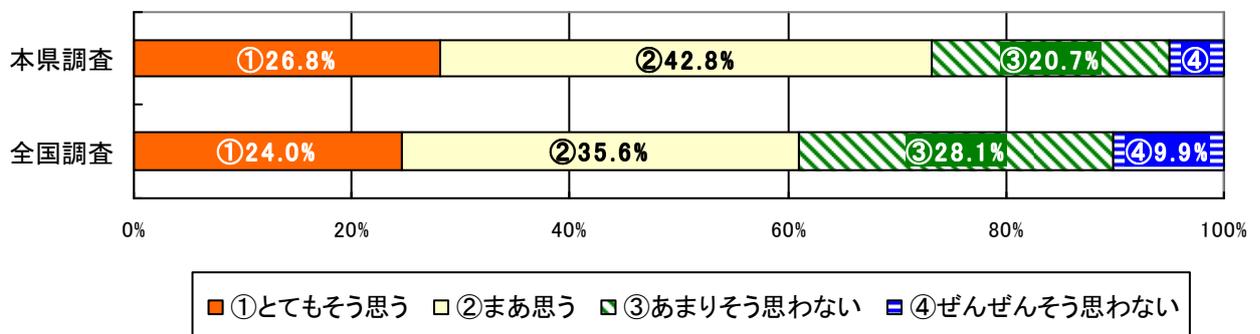


本県と全国調査を比較した結果、「③あまりそう思わない」と「④ぜんぜんそう思わない」の割合の合計は本県が 5.6%高い。



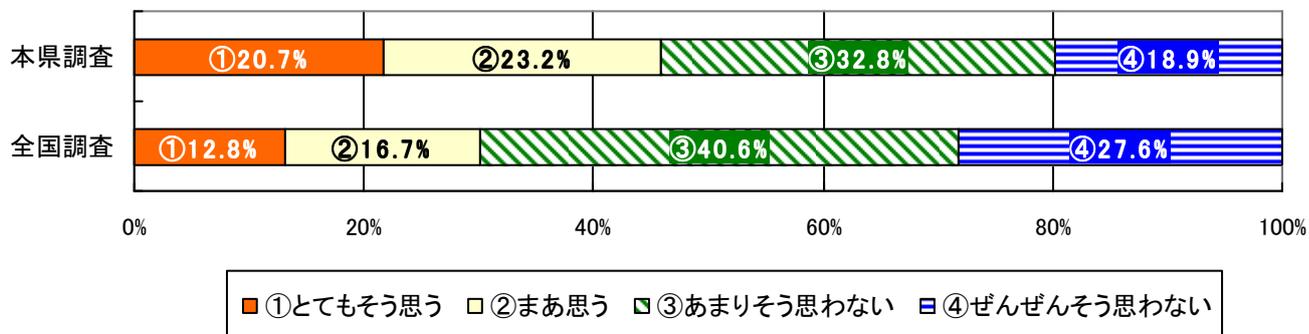
(2) 家族が病気の際に預かってほしい

本県と全国調査を比較した結果、「①とてもそう思う」と「②まあ思う」の割合の合計は本県が 10%高い。



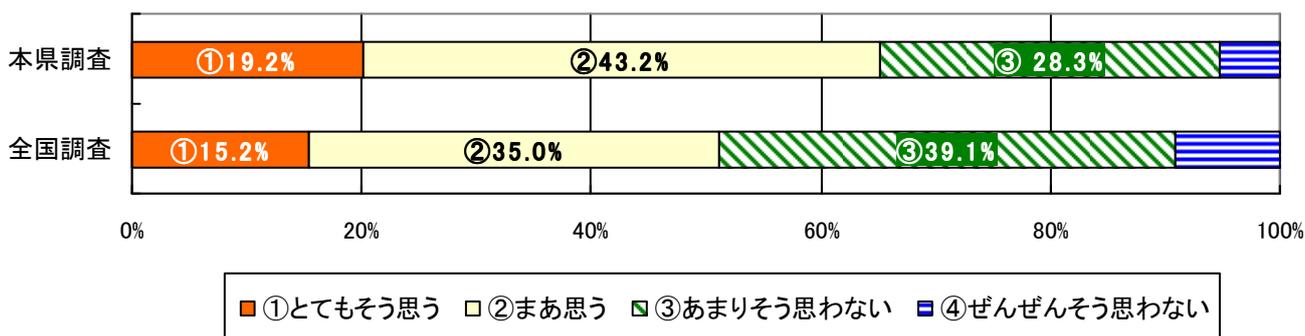
(3) 子どもが病気の時に預かってほしい

本県と全国調査を比較した結果、「①とてもそう思う」と「②まあ思う」の割合の合計は本県が14.4%高い。



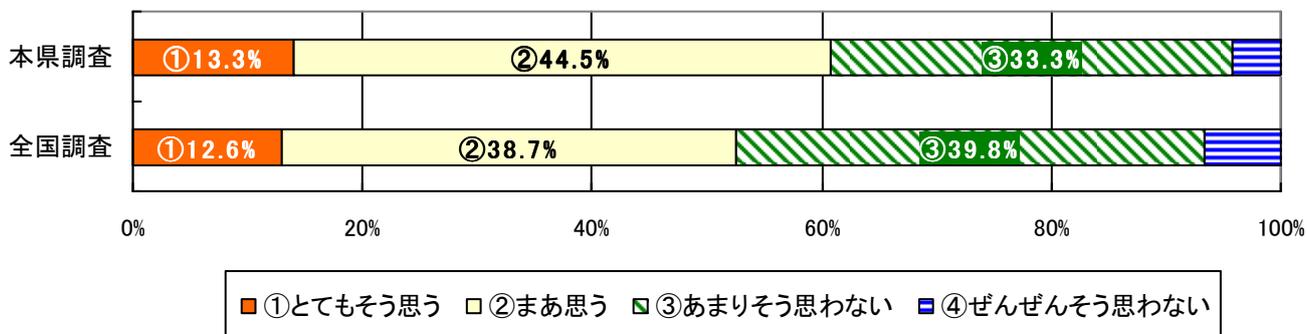
(4) 知的教育を増やしてほしい

本県と全国調査を比較した結果、「①とてもそう思う」と「②まあ思う」の割合の合計は本県が12.7%高い。



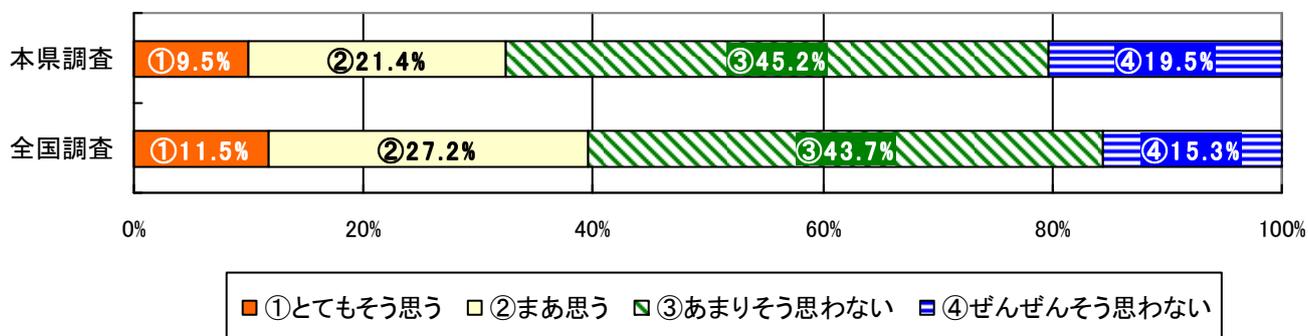
(5) 自由な遊びを増やしてほしい

本県と全国調査を比較した結果、「①とてもそう思う」と「②まあ思う」の割合の合計は本県が12.7%高い。



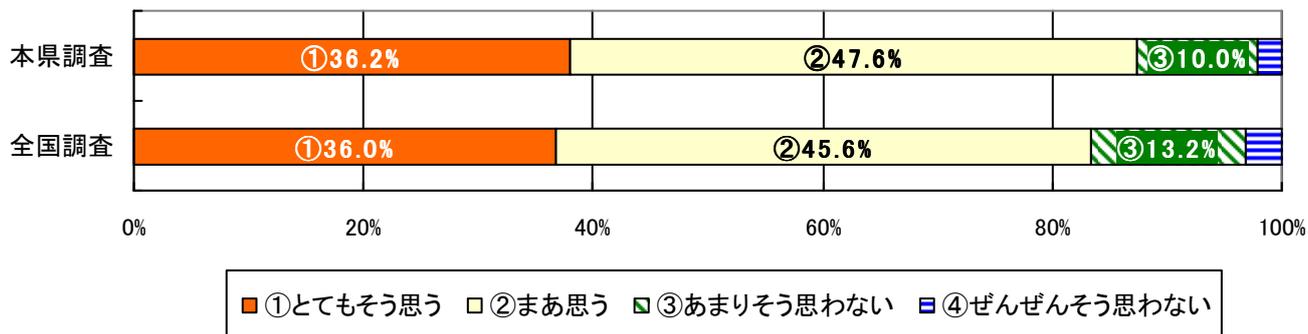
(6) 保育終了後におけいこ事をやってほしい

本県と全国調査を比較した結果、「①とてもそう思う」と「②まあ思う」の割合の合計は本県が7.8%低い。



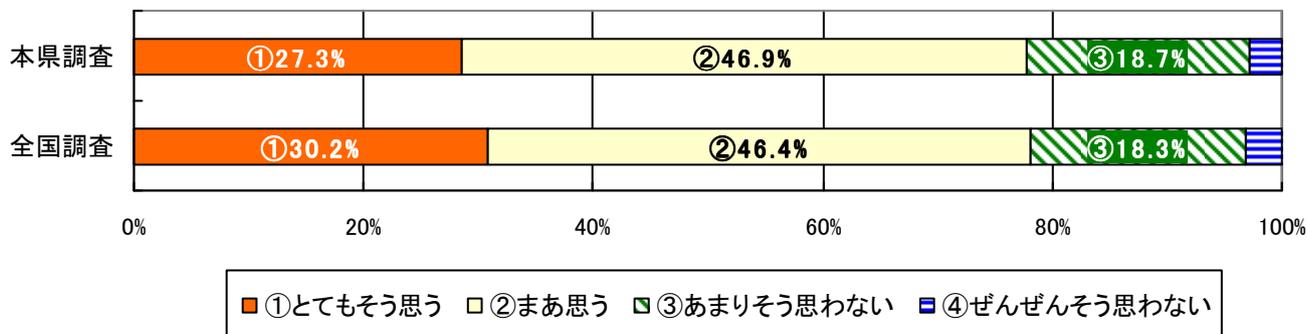
(7) 集団生活のルールを教えてほしい。

本県と全国調査を比較した結果、「①とてもそう思う」と「②まあ思う」の割合の合計はいずれも80%を超えている。



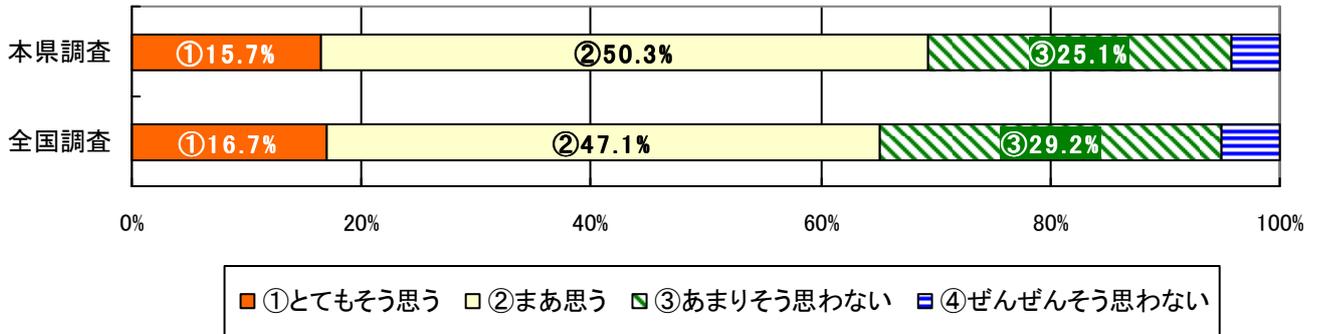
(8) 友達付き合いが上手になるよう子どもに働きかけてほしい。

本県と全国調査を比較した結果、「①とてもそう思う」と「まあ思う」の割合の合計はいずれも概ね75%前後となっている。



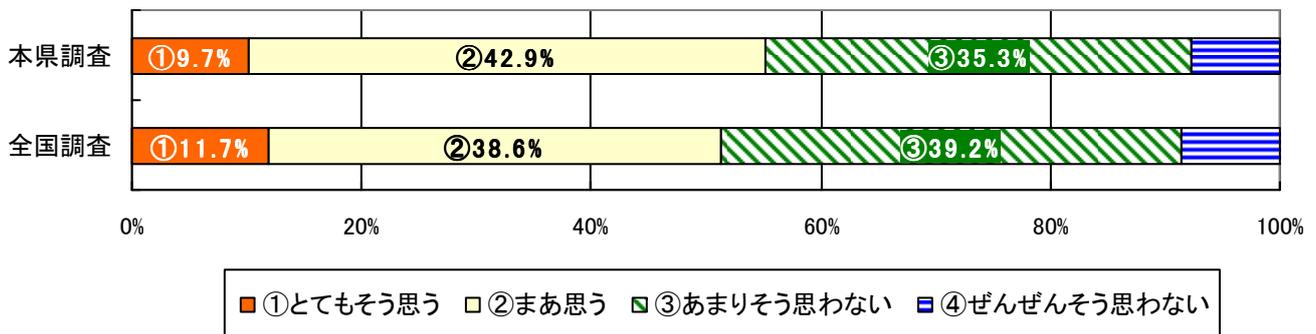
(9) 子育て相談ができる場所になってほしい。

本県と全国調査を比較した結果、「①とてもそう思う」と「②まあ思う」の割合の合計はいずれも概ね65%前後となっている。



(10) 保護者同士が交流できる支援をしてほしい。

本県と全国調査を比較した結果、「①とてもそう思う」と「②まあ思う」の割合の合計はいずれも概ね50%となっている。

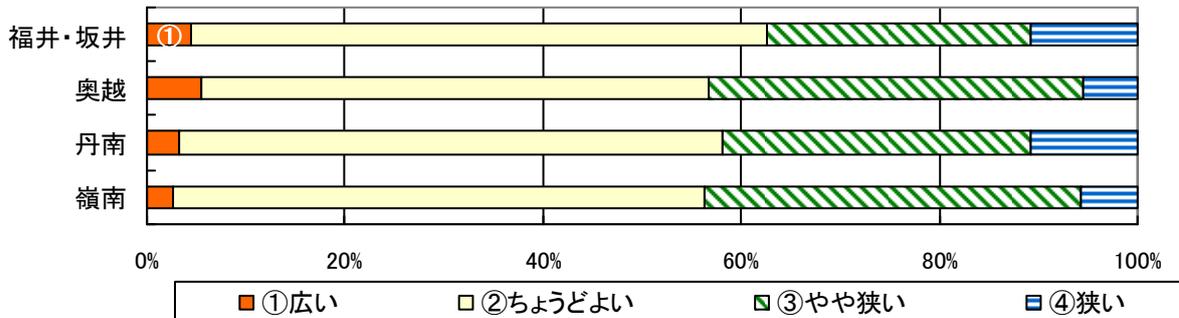


7 保育所・幼稚園等の施設等

(1) 保育所・幼稚園等の園庭

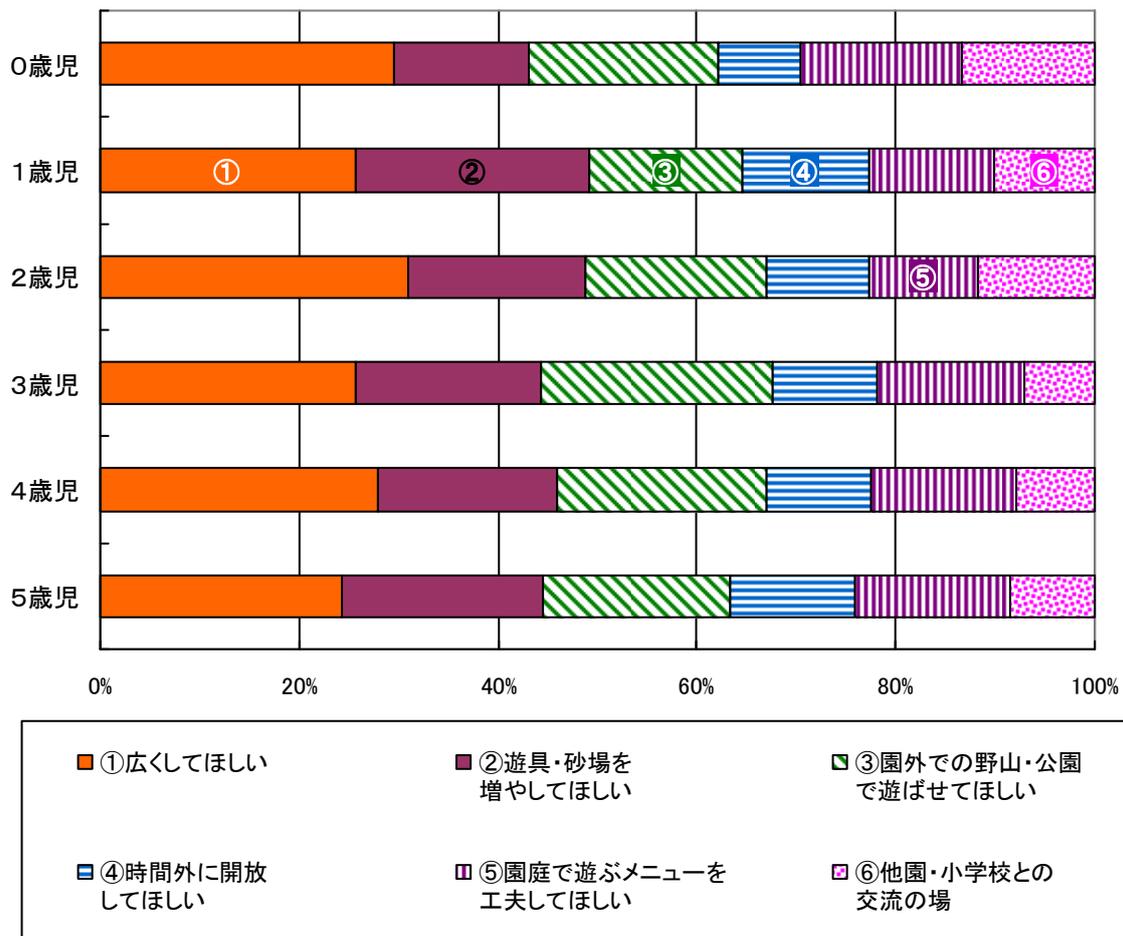
ア 広さ

いずれの地域においても「②ちょうどよい」の割合が半数を超えている。



イ 園庭に関する要望・改善点(複数回答)

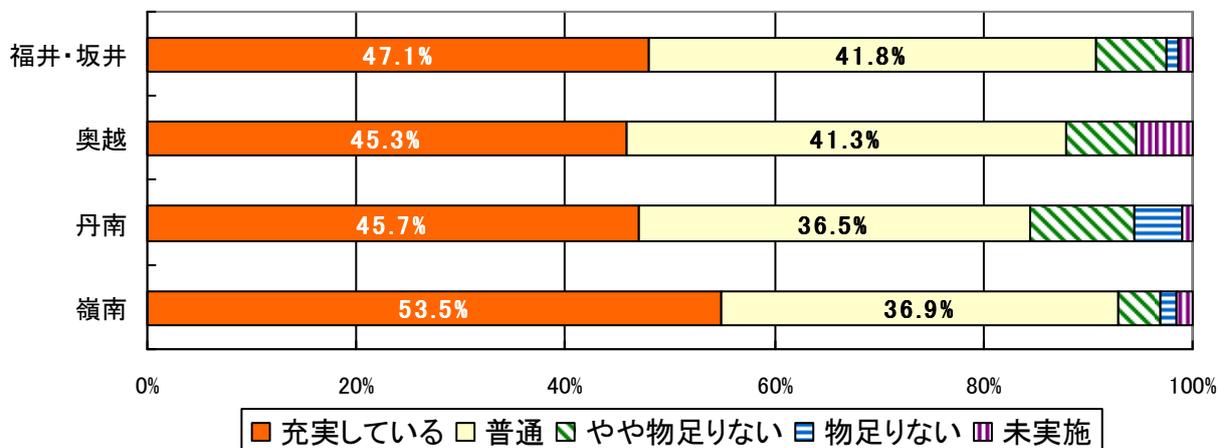
「①広くしてほしい」が最も多く、次いで「②遊具・砂場を増やしてほしい」または「③園外での野山・公園で遊ばせてほしい」の順となっている。



(2) 保育所・幼稚園等の給食

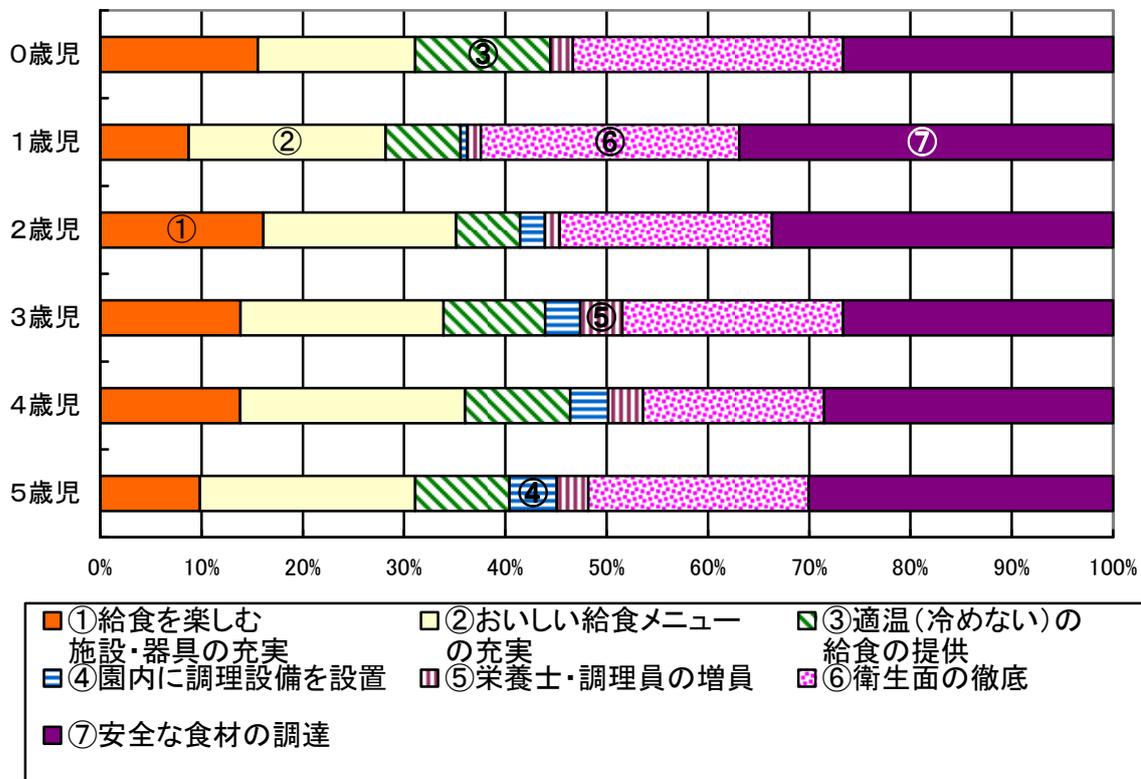
ア 給食の満足度

いずれの地域も「充実している」の割合が概ね45~55%となっている。



イ 給食施設に関する改善点（複数回答）

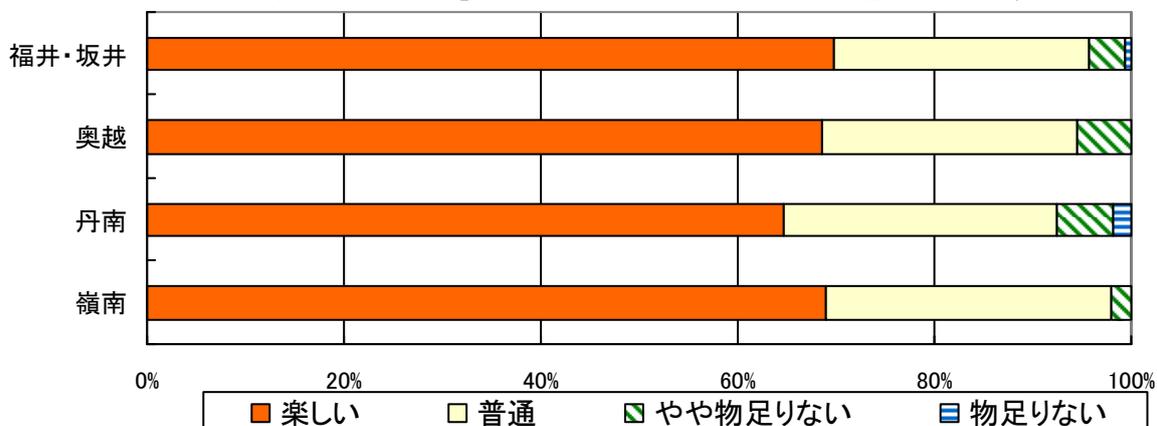
いずれの年齢の保護者も「⑦安全な食材の調達」の割合が最も高く、次いで「②おいしい給食メニューの充実」または「⑥衛生面の徹底」が続いている。



(3) 保育所・幼稚園等での生活

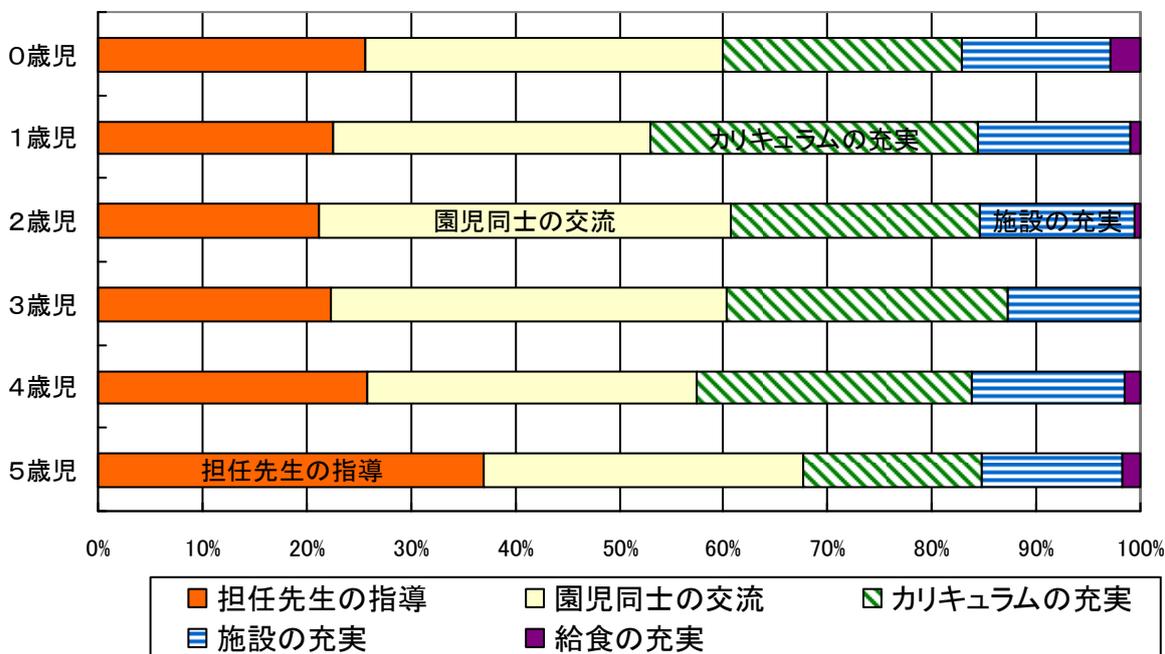
ア 園生活の幼児の状況

すべての地域で「楽しい」と回答した割合が60%を超えている。



イ 幼児の園生活をさらに充実させるための最も重要なこと

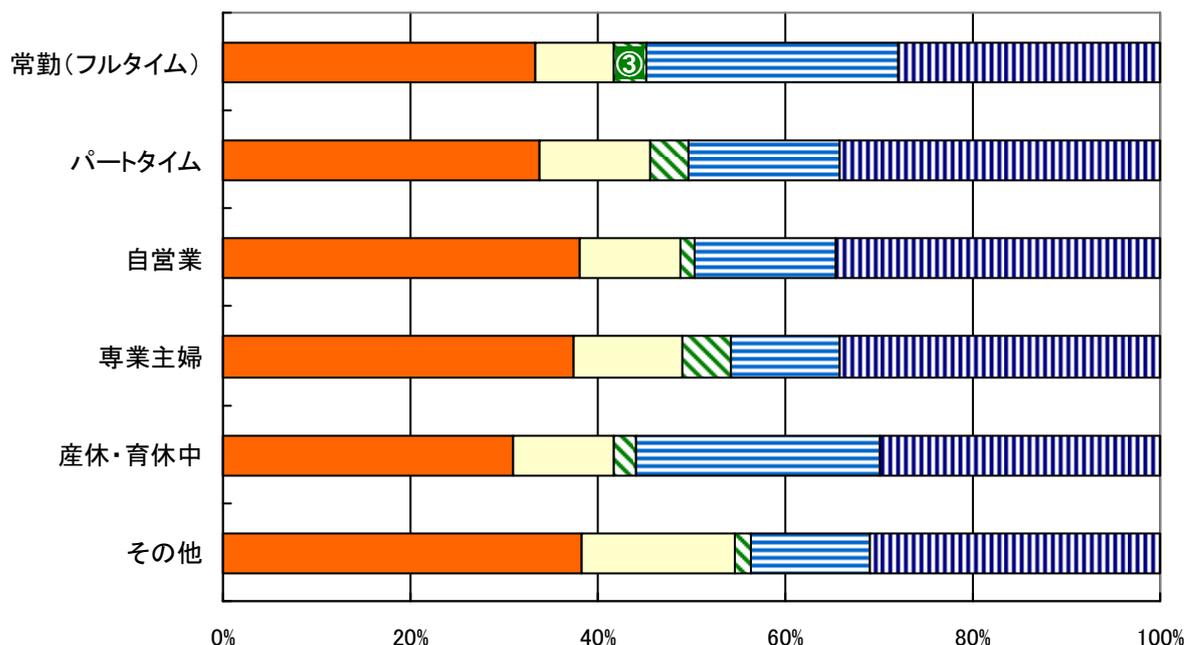
5歳児の保護者は「担任先生の指導」が最も多いが、それ以外は「園児同士の交流」が最も多くなっている。また、「カリキュラムの充実」を上げる割合が1歳児、3～4歳児の保護者で20%を超えている。



(4) 保護者の幼児期に比べて特に変化したと思われる事項

「①幼児同士で遊ぶ機会が少なくなった」、「⑤公園など屋外で自由に遊ばせることができなくなった」の割合が高くなっている。

また、母親の職業が常勤（フルタイム）と産休・育休中の保護者は「幼児を保育所・幼稚園等に迎えに行く時間が遅くなった。または祖父母が迎えに行くようになった」の割合が高い。



- ①少子化が進展し、近所で遊べる幼児が少なくなり、幼児同士で遊ぶ機会が少なくなった。
- ②核家族化または都市化が進展し、幼児が帰宅した後、祖父母または近所の方に面倒を見てもらえなくなった。
- ③祖父母と同居していないため、歯磨きやトイレの使用方法、鉛筆の持ち方など生活習慣の指導をしてくれる人がいなくなった。
- ④共稼ぎ世帯が増加し、幼稚園・保育所等に幼児を迎えに行ける時刻が遅くなった、または祖父母が迎えに行くようになった。
- ⑤イノシシや不審者の出没や交通事故が多くなるなど自然・社会環境が変化し、公園など屋外で自由に遊ばせることができなくなった。

8 自由意見

(1) 保護者の理想とする幼児教育について

No.	意見	世代	地域名
1	<p>幼児期は、土台作りだと思っているので、のびのびと多少危ない事もやらせ自分で危ないとわかる（学ぶ）ような環境で育てたい。</p> <p>また、何でもダメダメいうのじゃなく、どうしてダメなのか伝える努力をし、上から押さえつけるような叱り方は、子供の興味・関心の目を紡いでしまうと思う。</p>	20歳代以下	福井・坂井
2	<p>最近では早期幼児教育や脳科学などの理論で子供をエリートに育てようと親が必死になっているような気がします。それにより窮屈な思いをしたり、思いやりが持てない子供が増えているような気がします。</p> <p>子供は持って生まれた学ぶ能力があるのだから、親はそれを少しサポートする位の気持ちで子供の想像力・創造力を伸ばし、社会の中での人との関わり方を身につけていくのが教育だと思います。</p>	20歳代以下	奥越
3	<p>勉強ばかりを重視するのではなく、他人とのコミュニケーションを多く取り入れ、助け、助けられるような友達を作ってほしい。</p>	20歳代以下	丹南
4	<p>子供が3歳になるので、保育園に通園させたいのですが、近くの保育園は自由保育で、保育園へ見学に行ったのですがちょっとびっくりして、通園させるのはちょっとという現状でした。</p> <p>自由保育にも限度があると思いますが…。親として子どもを預けるのが心配なので幼稚園にします。</p>	20歳代以下	嶺南
5	<p>保育園などで、同年代と遊びながらいろんなことを肌で感じながら学習して行ってほしい。できれば、祖父母と一緒に生活もしながら幼児教育ができればなおよい。人と接しながらの教育が望ましいと思う。</p>	30歳代	福井・坂井
6	<p>一般的に自分の小さい頃より熱心になっている。園も競争のためか評価の対象となるカリキュラムが多い（できる・できないでわかるようなもの、音楽、体操、スイミング、製作）。</p> <p>それもととても大切で親にとってはありがたいですが、トータルでみて一人一人が通いやすい園もあればと思います。</p>	30歳代	福井・坂井
7	<p>幼い頃から習い事をするのはいいことだと思うんですが、野山をかけたり、自然と触れ合う時間というのも、すごく大切だと思います。</p>	30歳代	福井・坂井
8	<p>カリキュラムが多すぎる。幼児期は、子ども同士で、外で走り回</p>	30歳代	福井・坂

No.	意見	世代	地域名
	っているだけでいい。英語教育は、幼児期に必要なのでさせないでほしい。それより、もっといい絵本をたくさん読んであげてほしい。		井
9	自然で伸び伸びとした遊びをたくさんさせて、なるべく外で遊ばせたい。おけいこ事は、体を動かすような内容（スイミングなど）をさせて、勉強は小学生になってからでもよいと思う。	30歳代	福井・坂井
10	小学校ではまだレベルの高いことは求めません。まずは人としての基本となることをしっかり教育すべきと思います。 また、夢を持つことの大切さも中学くらいから教えると良いかと思います。教え方が難しいかと思いますが…。ある程度目標があれば、前に進む子は増えると思います。	30歳代	福井・坂井
11	自分達の幼児期は、自由に遊び、痛み・思いやりを親族、教育者から叱ってもらいながら学びました。教育者としては、現代の問題があるのはわかりますが、祖父母のいない家庭においての父母のみの教育環境は正直不安しかありません。教育とは、学びでもありますが、指導が欠けています。幼児期の子供は身を持って学ばなければならないこともあるはずです。	30歳代	奥越
12	頭が良い（勉強ができる）だけでは、将来子供が辛い思いをするので、まず夢を明確にしてあげて、それに向かって勉強できると良いと思う。もしダメになっても今まで頑張ってきたことを評価する家庭にしたいと思う。	30歳代	奥越
13	親子で触れ合いの時間をなるべく多く持つことが大切だと思います。なるべく3才までは、子供に色々なことを見せ、体験させてあげて、感性を育てていくことも幼児教育の大切なことだと感じています。	30歳代	丹南
14	家族そろって夕食→9時までは就寝→早起き・しっかり朝ごはんを食べるといった基本的な生活ができること。共働きだと、夕食の時間もバラバラで、寝かしつけの時間も遅くなってしまいます。 「学び」以前に基本的な生活習慣や、人間性の育成に力を入れることが大切だと思う。	30歳代	丹南
15	先生と子供が、本気でぶつかり合って遊び、指導しお互いを認め合える関係。子どもが主体的に活動できる時間と考え「生きる力」を育ててほしい。先生と保護者がもっと信頼関係を深め、コミュニケーションを自然にとれる雰囲気。	30歳代	丹南
16	福井の良いところは”田舎”であること。将来、子どもは都会に	30歳代	嶺南

No.	意見	世代	地域名
	一度出ていくことになるだろうが、田舎で学ぶことは都会に出ても人間の本能・本質的な部分で力になる。そしてまた福井に帰ろうと思う。故郷を大切にする。学力トップは良いことだ。でも人間として生きる力は田舎の生活にあるはず。福井でしか出来ない教育を子どもにさせたい。		
17	「～ができるようになった」という目に見える成果を重視するのではなく、目には見えないけれど社会の中で生きていくのに、必要な力（人の気持ちを思いやる心、人の心の痛みが想像できる力、失敗してもくじけずまた頑張れる力、自分や人を信じる心、人と支えあう生き方、関係づくり）を大切にしたい幼児教育であってほしいと感じています。	30 歳代	嶺南
18	共働き世帯が多く、毎日の生活で精一杯。なかなか幼児教育まで手が回らない現状です。仕事で育休や時短をとることに罪悪感を感じる環境です。 共働き等日本一の福井県だからこそ、子供に手がかかる一時期だけでも育休や時短が心苦しくなくとれる場所になると心の余裕ができて、幼児教育など考える余裕がでてくるのではと思います。	30 歳代	嶺南
19	「将来の夢」という点では小さい時からこんな仕事がある、こんなことが出来る、などのある程度のビジョンがあると小さい子なりにイメージができると思います。いろいろな職種の人と触れ合える体験ができるのではないのでしょうか。	40 歳代	福井・坂井
20	人間の基本的なこと「ありがとう」や「ごめんなさい」を素直に言えたり、自分の思っていることを話せる人間になってほしい。 今、通っている園ではそのような教育がされているのでありがたい。	40 歳代	福井・坂井
21	核家族化が進み、農家や昔ながらの遊びや自然に触れる機会が少なくなっているため、いろいろな体験を通して、このような経験が地域の方々とできるといいなと思います。	40 歳代	奥越
22	コミュニケーション能力が年々弱くなっている気がします。 幼児の時に他者との人間関係が上手になれるよう幼児教育で少しでも、学べると良いと思います。	40 歳代	奥越
23	英語や音楽教育を充実してくれるとうれしいです。 ひらがなの習得なども、早くからしてほしいです。	40 歳代	嶺南
24	最低限のマナーを教え、良い事、悪い事を頭でなく心で教える。	50 歳代	福井・坂井

No.	意見	世代	地域名
25	学力は学校に行ってからでよいと思います。集団生活はルール、思いやり、自分はこれが他人よりも得意！という所を伸ばしてあげられる教育をしてあげてほしい。して良いこと、悪いことの線引きをしっかりと心に引ける人になってほしい。	50 歳代	嶺南

(2) 家庭教育について

No.	意見	世代	地域名
1	世代によって考え方や叱り方が異なっているため、私自身、適応していくのが難しい。何が一番子供にとってよいのか考えるが、結局分からないまま日々を生活している。	20 歳代以下	福井・坂井
2	家族との時間を大切にし、家族を大事にする気持ちを持てるような子になって欲しいです。家庭内での子供の姿だけを見て、自分の子はこういう子だと決めつける親が多いと思うので、学校や近所、社会の中での子供の姿をもっと見る機会があるといいと思います。	20 歳代	奥越
3	食事は、手作りのものを家族みんなで食べるようにしていきたい。スーパーでのお惣菜よりも母親の手作りの料理、一人で食べるよりもみんなで食べた方がおいしい。 教育はまず食事からと思っています。	20 歳代	丹南
4	家庭環境上なかなか幅広く見てあげられないので保育園などで子供のために手助けしてもらいたい。	20 歳代	嶺南
5	今現在60才以上の方が仕事についており、若い者も同居を選ばなくなり、高齢の方と会うことが少なくなったと思う。若い者が一から子育てをしていく上で助言を頂ける人がいない状態で、同時に高齢な方も意見が合わないから「口を出さない」という状態も続いている。 行政を頼るしかない若い人たちへの気持ちの理解を高齢の方も解ってもらえると良いなと思う。	30 歳代	福井・坂井
6	うちは同居なので祖父母からもしつけの面で教育を受けられていますが、そうでない家庭も多いかな。核家族でもキチンとしている人はしてるので、やはり親としての自覚が問題かと。	30 歳代	福井・坂井
7	人の気持ちがわかる子にという思いはあるのですが、あまり考えすぎない（良い意味で）気にしない、おおらかな子になって欲しいと思います。そうすれば学級崩壊やいじめ等、減るのではないかなと思っています。家庭でできることはまず、子供と向き合うこと、いつも見守ってるよとアピールすることだと思います。	30 歳代	福井・坂井

No.	意見	世代	地域名
8	保育園の先生方は子供達の扱いや、やる気にさせる言い回しが上手いなあと感じるので、子育てのツボなどをお便りなどで教えてくれたら良いなあとと思う（なかなか思うように言うことを聞いてくれない。）。	30歳代	福井・坂井
9	<p>祖父母と離れて生活していると家庭教育において祖父母の力がいかに大きいかということをつくづく感じる。物を大切にすること、心豊かな生活、行儀…と、いろんなことを祖父母がゆったりとした心構えで教えてくれるのだと思う。</p> <p>共働きの核家族では、子どもにゆったりと接するゆとりもなく、心を育てることができていないのではないかと不安。</p>	30歳代	奥越
10	核家族になり、祖父母が育児に参加しなくなった。今の祖父母は育児を知らない。何故なら自分の子は祖々父母に育ててもらっているから。趣味や旅行もほどほどにし、育児をしてほしい。市や公民館の子育て支援は非常に充実し、利用者目線であり、とても使いやすい。県に要望する。生後1カ月未満の母子のケアを充実してほしい。	30歳代	奥越
11	家に帰るのは、19:00以降なので、上の子とのコミュニケーションを取るのが、平日はお風呂だけになってしまうので、親子のコミュニケーションを取るのに仕事も大切だけれど、取るように心がけたいです。ゲーム・テレビが多くなりがちなので、外でたくさん遊びたいです。	30歳代	丹南
12	家庭教育の大切さを親が学ぶべきだと思う。親がしっかりと子供に接し、人格を尊重していけるようになれば、子供もわかって立派に成長すると思うので、親がどう接するべきか教えてほしい。勉強しないといけない。	30歳代	丹南
13	週休2日制になり、学校で削られた時間を家庭教育という言葉で各家庭に負担を一方的に押しつけた形で、教育のプロでない素人には難しい。仕事を持たない保護者のいる家庭になら対応可能かもしれないが、仕事と子供の教育を両立させていくのは、とても難しいことだと思っているが私は自分の時間は家庭教育にあてている。	30歳代	丹南
14	核家族が増え、親とは子とは、物で心を埋めたり、手作りが減ったり、マナーを教えるべき親が、マナーが悪かったり…大家族がいいですね。家庭教育も大事だが家庭が子供の安全基地になる必要があるのでは。	30歳代	嶺南
15	子供同士の集会や（土日祝）子供会行事などもっと充実して頂け	30歳代	嶺南

No.	意見	世代	地域名
	れば、子供同士も親同士もとても交流がしやすくなる。		
16	仕事・家事・子育てと母親の時間がなかなかないのであまり本を読んであげたり、字を書くのを見てあげたりする時間がないのが悩みです。	40 差台	福井・坂井
17	とにかく家族間の何気無い会話、コミュニケーション、漠然とでもよいので将来どんなことをやってみたいのか考えるように進めています。勉強は大事ですが、人間同士の関わり合いを大切に出来る人になって欲しいです。^	40 歳代	奥越
18	パートとは言え、家族みんなが共働きをしているので、なかなか手が行き届かないところも多い。その上、子供が少ない地域のため、PTA や子供会の役員を毎年せねばならず、時間がとれません。 地区の人数によって、考えて頂けるといいのですが、いろんな活動が子供にとって、家族にとって、いいこととは、とても思えず戸惑っています。	40 歳代	丹南
19	基本的なことは(勉強以外のことなど)、家庭で身につけるものだと思います。「学校で学ぶこと」「家庭で身につけること」をもっと明確にした方がいいのではないのでしょうか?	40 歳代	嶺南
20	最近の風潮は低年齢で入園させたがる親が増えてきています。その方がよい教育を受けられると思われていますが、家庭の中でゆっくりと過ごす中で育つものの方がずっと多くあると思います。せっかく母親が育てることができるようになってきているのにもったいないことです。	50 歳代 以上	丹南

(3) 地域教育について

No.	意見	世代	地域名
1	児童館が近所にあるが、利用者が小学生なので、幼児も含んでもらえるとありがたいです。年上の子が年下の子を見る、という環境を作ってもらいたいです。	20 歳代 以下	福井・坂井
2	保育園入所前は公民館の子育てサークルに参加していました。子どもを遊ばせながらお母さん同士で情報交換や交流する場となって、とってもよかったです。現在も公民館での行事があれば参加しています。	20 歳代	福井・坂井
3	土曜(午前中のみ)だけでなく、土日祭日も遊びに行けるようにしてほしい。保育園に行っている子供も支援センターにいけるようにしてほしい。	20 歳代	嶺南

No.	意見	世代	地域名
4	隣同士のつながり、近所付き合いが大事だと思います。昔のように、隣の子供が自由に遊びに来たり、行ったり、隣の子供も隣の親が見たりできるように地域ぐるみの子育てができるのが理想です。	30歳代	福井・坂井
5	いろいろな良い活動があり、いつも参加させてもらっています。(ありがたいです!!) 対象が小学生からのことが多いので、小さい子にも参加できる内容が増えるといいと思います。	30歳代	福井・坂井
6	近所に住んでいても、幼児期ではなかなか交流が取れないので、小学校区域でもいいので児童館・公民館で交流会のようなものがあると参加しやすい。	30歳代	福井・坂井
7	子どもが4人いて、仕事は仕事で穴を空けるわけにもいかず、病児保育に預けるにも勇気がいります。何か良い方法があるといいなと思います。保育士の資格はないけれども地域のお年寄りの子育て経験のある健康な方にお金を払って見てもらう等、一石二鳥かなとも思います。	30歳代	福井・坂井
8	近所付き合いが希薄に・・・と言われていますが、うちの近所は子ども会活動も盛んで、近所の人との交流も多いです。ただそれで子どもが遊ぶ暇もない…という時期もあります。児童館は自宅から遠い(学校内にある)ですがよく利用します。児童館での子供同士のトラブルに児童館の先生が無関心(気付いてない)なのが困ります。児童館といえども子供にしてみれば学校生活の延長になるので、児童館の先生の教育面での専門性も必要だと思います。	30歳代	奥越
9	公民館などの催しも私はよく行って、友だちもできましたが、出てこない人はどれだけ地域教育が充実していても出てこない。いつも同じメンバーが参加していました。出てこない人がいることに関しては根本的にそういうところをどうしたらいいか考えないといけないと思う。	30歳代	丹南
10	小学生からのものは多数行われていますが、幼児向けのものは少ないと思います。特に日常的に触れ合いの場が特定の場所に設けられていると良いです(中でもお年寄りとの交流)。あまりにお粗末だと思うのが、雨天時に幼児が遊べる施設がないことです。ショッピングセンターに行くくらいしかありません。エンゼルランドまで行かなくても、是非考えていただきたく思います。	30歳代	丹南
11	先日テレビで見たが、東京のある地域では小学校の授業終了後校舎の隣で預かって色々学ばせてくれていた。学童は3年生までだが、	30歳代	丹南

No.	意見	世代	地域名
	そこは6年生まで、夏休みでも通えるので、すごくいいと思った。福井でも実施してほしい。安心して仕事へ行ける。		
12	学童保育の充実が求められている。夏休みは学校に囲いこむ方向ではなく、自然体験活動など普段、体験できない活動をしていく方向にしていかないと、せっかく幼児期に培われた活力が、学童期に失われていってしまう。幼児教育と学齢期教育の連携が必要。	30歳代	嶺南
13	他県の人の意見を聞くと、福井は地域教育がよくできていると言われています。このまま続行してほしいです。	30歳代	嶺南
14	私の町内は子どもが減って子ども会行事も低調です。子どもがいない理由としては、祖父母世代が「若い者と同居したくない」との考えから同居を断っているそうです。そういう考えから改めなくては、よい子育てはできないと思います。皆が自己中心的だなあと感じます。	30歳代	嶺南
15	いろんな人生経験を積んだ方々が小学校の活動にもっと積極的に関わるとなると良いと思います。地域ぐるみで子どもを育てている意識が強くなるのではないのでしょうか。	40歳代	福井・坂井
16	子どもと高齢者がもっと関わりを持てるとよい。たまにはではなく、いつも…。高齢者施設内に児童館をつくるとか…。以前考えて市に言ったら、こまかい決まりばかり重視でやめた。お役所的考えを捨て、新しい発想は必要。他県ではやれているのだから!!	40歳代	福井・坂井
17	少子化がひどく進んでいるので、子ども会なども存続が難しく、子ども会に残る保護者の負担は大変なものです。町内の方々もそれをわかってほしいと思います。	40歳代	丹南
18	公民館 児童館が近くにない。 子育て支援センターは未就園児のみしか利用できない。	40歳代	嶺南
19	最近はこちらに子供や母親を対象にした行事があり、子育て中の若い人には喜ばれているようです。しかし、どこに行ってみても子どもをそこにある玩具で遊ばせているだけで、親子が触れ合っている姿はあまり見られません。自然が一杯の中に住んでいる私は家の周りを歩いたり、近所の人と立ち話をしたり、家事をする中に孫と一緒に参加させています。孫育てを心から楽しんでいます。	50歳代以上	丹南
20	公民館行事、親の役員をする機会が多い。志が高く、考えはよいが余裕のない(お金、時間ともに)わが家はつらい。(子供が少なくなったのに、昔と同じ、もしくは増やすのは裕福な(休みもとれ、時間外労働はない、お金持ち)家でだけでやってほしい)	50歳代以上	嶺南

幼児教育に関するアンケート <保護者編>

～県政マーケティング調査～

I 調査に当たって

このアンケートは、県において幼児教育プログラム（仮称）を策定するに当たって、幼児教育の現状等を把握するため、幼児（0～5歳児、以下、「お子様」と申し上げます。）の保護者を対象にお聞きするものです。

ご多忙と存じますが、アンケートの回答にご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。

II 共通設問

ご回答いただいた保護者の方について、以下の設問をお聞きしますので、該当する事項に「○」を付してください。

問1 性別

- 1 男性 2 女性

問2 年齢

- 1 20歳代以下 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代以上

問3 住所

- 1 福井・坂井地域 2 奥越地域 3 丹南地域 4 嶺南地域

問4 現在、お子様と一緒にお住まいの方をすべて教えてください（同じ敷地に住んでいる場合を含めます。）。

- 1 父親（保護者） 2 母親（保護者） 3 兄弟姉妹 4 祖父
5 祖母 6 親戚（叔父・従兄など） 7 その他

問5 お子様の母親の職業

- 1 常勤（フルタイム） 2 パートタイム 3 自営業
4 専業主婦 5 産休、育児休暇中 6 その他

問6 お子様の父親が最後に卒業された学校

- 1 中学校 2 高等学校 3 専門学校 4 高等専門学校
5 短期大学 6 4年生大学 7 大学院（6年制大学を含む。）
8 その他

Ⅲ 個別設問

1 お子様の共通設問

以下の設問については、ご案内させていただいたお子様について該当する事項に「○」を付してください。

問1 お子様の性別

- 1 男性 2 女性

問2 お子様の年齢（平成23年4月1日現在）

- 1 0歳児 2 1歳児 3 2歳児 4 3歳児
5 4歳児 6 5歳児

問3 お子様の兄弟（姉妹）数（お子様を含めた人数）

- 1 一人っ子 2 2人 3 3人 4 4人 5 5人以上

問4 お子様に通園する幼稚園・保育所等

- 1 私立幼稚園 2 国公立幼稚園 3 私立保育所 4 公立保育所
5 私立子ども園 6 公立子ども園 7 その他の施設
8 通園していない

問5 問4で「7」以外をご回答したお子様の幼稚園・保育所等の所在地とお住まいの地域の小学校の通学区域の状況

- 1 小学校の通学区域内にある幼稚園・保育所等に通園
2 小学校の通学区域外であるが、中学校通学区域内にある幼稚園・保育所等に通園
3 小中学校の通学区域外で、保護者の職場の近くまたは通勤途上の幼稚園・保育所等に通園
4 小中学校の通学区域外で、別居する祖父母がお住まいの地域にある幼稚園・保育所等に通園
5 その他

2 お子様の個別設問

問6 お子様の遊び相手または面倒を見てくれる人をお聞きします。

(1) 平日、(幼稚園・保育所等以外で)遊ぶ時は誰と一緒にいることが多いですか。該当する方すべてに「○」を付してください。

- 1 母親 2 父親 3 祖母 4 祖父 5 兄弟姉妹

7	7	武道・武術（空手・剣道・柔道など）
8	8	楽器（ピアノやバイオリンなどの個人レッスン）
9	9	音遊び・リズム遊び（音楽教室）
10	10	絵画・造形
11	11	英会話などの語学の教室
12	12	幼稚園や小学校受験のための塾
13	13	受験目的ではない学習塾や計算・かきとりの塾
14	14	定期的（月1回程度）に教材が送られてくる通信教育
15	15	教材を一括して購入する教材
16	16	その他（具体的に： _____ ）

問9 貴方は、どのようなことに力を入れて、お子様を育てていますか。該当する欄に「○」を付してください。

設問	とても力を入れている	まあ力を入れている	あまり力を入れていない	全然力を入れていない
1 屋外で遊ぶこと				
2 友達と一緒に遊ぶこと				
3 自然とたくさん触れ合うこと				
4 親子でたくさん触れ合うこと				
5 身体を丈夫にすること				
6 基本的な生活習慣を身につけること				
7 他者への思いやりを持つこと				
8 自分の気持ちや考えを人に伝えること				
9 自分でできることは				

自分ですること				
1 0 社会のマナーやルールを身につけること				
1 1 伝統や文化を大切にすること				
1 2 数や文字を学ぶこと				
1 3 外国語を学ぶこと				
1 4 芸術的な才能を伸ばすこと(音楽や絵画など)				
1 5 興味や関心を広げること				

問 1 0 お子様の教育についてお聞きします。

(1) お子様に、将来どのような人になってほしいと思いますか。該当する事項を3つまで選んで「○」を付してください。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 リーダーシップのある人 | 2 自分の家族を大切にすること |
| 3 自分の考えを貫き通す人 | 4 友人を大切にすること |
| 5 他人に迷惑をかけない人 | 6 仕事で能力を発揮すること |
| 7 社会のために尽くす人 | 8 のんびりと生きる人 |
| 9 経済的に豊かな人 | 1 0 まわりから尊敬される人 |

(2) 現在、お子様をどの程度まで進学させたいとお考えですか。該当する事項1つに「○」を付してください。

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1 中学校卒業まで | 2 高校卒業まで |
| 3 専門学校卒業まで | 4 短大・高等専門学校卒業まで |
| 5 4年生大学卒業まで | 6 大学院卒業まで(6年制大学を含む) |

問 1 1 幼稚園・保育所等(その他の施設を含む。)に通園するお子様についてお聞きします(自宅におられるお子様の場合、お答えは不要です。)

該当する事項1つに「○」を付してください。

(1) 幼稚園・保育所等に行くために何時頃、家を出ますか。

- | | | | |
|---|---------|---|-------|
| 1 | 7時30分以前 | 2 | 8時頃 |
| 3 | 8時30分頃 | 4 | 9時頃 |
| 5 | 9時30分頃 | 6 | 10時以降 |

(2) 幼稚園・保育所等から何時頃、帰宅しますか。

- | | | | | | |
|----|---------|----|---------|----|---------|
| 1 | 13時以前 | 2 | 13時30分頃 | 3 | 14時頃 |
| 4 | 14時30分頃 | 3 | 15時頃 | 6 | 15時30分頃 |
| 7 | 16時頃 | 8 | 16時30分頃 | 9 | 17時頃 |
| 10 | 17時30分頃 | 11 | 18時頃 | 12 | 18時30分頃 |
| 13 | 19時以降 | | | | |

(3) 現在、通っているお子様の幼稚園・保育所等について、貴方は次の事項についてどう思いますか。

該当する欄に「○」を付してください。

設問	とてもそう思う	まあ思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
1 保育の時間を長くしてほしい(または延長保育をやってほしい。)				
2 家族が病気の時に預かってほしい				
3 子どもが病気の時に預かってほしい				
4 知的教育を増やしてほしい				
5 自由な遊びを増やしてほしい				
6 保育終了後におけいこ事をしてほしい				

7 集団生活のルールを教えてほしい				
8 子どもに友達付き合いが上手になるよう働きかけをしてほしい				
9 子育て相談ができる場所になってほしい				
10 保護者同士が交流できる支援をしてほしい				

問 1 2 お子様の幼稚園・保育所等の園庭の広さについて

(1) お子様にとって広さ加減はいかがですか。該当する事項1つに「○」を付してください。

- 1 広い 2 ちょうどよい 3 やや狭い 4 狭い

(2) 園庭に関する要望・改善点はありますか。該当する事項すべてに「○」を付してください。

- 1 広くしてほしい 2 遊具・砂場を増やしてほしい
3 園外での野山・公園で遊ばせてほしい 4 時間外に開放してほしい
5 園庭で遊ぶメニューを工夫してほしい 6 他園・小学生との交流の場

問 1 3 お子様の幼稚園・保育所等の給食について

(1) 給食の満足度について、該当する事項1つに「○」を付してください。

- 1 充実している 2 普通 3 やや物足りない 4 物足りない
5 未実施

(2) 給食施設に関する改善点（現状と比較して改善・充実の要望点）はありますか。該当する事項すべてに「○」を付してください。

- 1 給食を楽しむ施設・器具の充実 2 おいしい給食メニューの充実
3 適温（冷めない）の給食の提供 4 園内に調理設備を設置
5 栄養士・調理員の増員 6 衛生面の徹底 7 安全な食材の調達

問 1 4 お子様の幼稚園・保育所等での生活について

(1) 園生活でのお子様の状況はいかがですか。該当する事項1つに「○」を付してください。

- 1 楽しい 2 普通 3 やや物足りない 4 物足りない

(2) お子様の園生活がさらに充実させるため最も重要なことについて、該当する事項1つに「○」を付してください。

- 1 担任先生の指導 2 園児同士の交流 3 カリキュラムの充実
4 施設の充実 5 給食の充実

問15 少子化および核家族化の進展など、お子様の幼児教育環境が大きく変化しておりますが、貴方の幼児期（保育所・幼稚園等に通園した頃）に比べて、以下の事項のうち特に変化したと思われる事項を3つまで選んで「○」を付してください。

- 1 少子化が進展し、近所で遊べる幼児が少なくなり、幼児同士で遊ぶ機会が少なくなった。
- 2 核家族化または都市化が進展し、幼児が帰宅した後、祖父母または近所の方に面倒を見てもらえなくなった。
- 3 祖父母と同居していないため、歯磨きやトイレの使用方法、鉛筆の持ち方など生活習慣の指導をしてくれる人がいなくなった。
- 4 共稼ぎ世帯が増加し、幼稚園・保育所等に幼児を迎えに行ける時刻が遅くなった、または祖父母が迎えに行くようになった。
- 5 イノシシや不審者の出没や交通事故が多くなるなど自然・社会環境が変化し、公園など屋外で自由に遊ばせることができなくなった。

IV 自由意見

本県では、小学校および中学校での全国学力調査結果で4年連続全国トップクラスの成績を取っておりますが、小学生にアンケート調査をした結果（H22 小学6学年）では「将来の夢や目標」、「自分のよいところ」、「人の気持ちがわかる人間」、「人の役に立つ人間」に関する意識は全国中位となっております。

幼児教育は、生涯にわたっての「学びの基礎力の育成」を行うものであり、親との関わり、生活や遊びを通じた学びが重要となっております。

問1 貴方が理想とする幼児教育について、ご意見があれば自由にお書きください。

問2 家庭教育について、ご意見があれば自由にお書きください。

問3 地域教育（近隣住民、公民館・児童館などの活動）について、ご意見があれば自由にお書きください。

ご回答ありがとうございました。

恐れ入りますが、同封した返信用封筒をご利用いただき、投函ください。

【回答期限】 10月21日（金）

【問合せ先】 福井県教育庁義務教育課 幼児教育支援室

電話（0776）20-0732

問合せ先

福井県教育庁義務教育課 幼児教育支援室

電話 (0776) 20-0732

FAX (0776) 20-0671

E-Mail youji@pref.fukui.lg.jp

幼児教育関連県 HP

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/gimu/youji.html>

